



発行 **東京清陵会** (諏訪清陵高等学校同窓会・東京支部) 会長=藤森宏一 編集 82回生(昭和51年入学) <http://tseiryu.com/index.html>
 事務局 〒113-0033 文京区本郷1-10-14 加奈利屋館7F TEL&FAX 03-3812-5887 DTP=スタジオパラム 印刷=中央印刷株式会社

旧制諏訪中学・諏訪清陵高等学校創立120周年記念

理想の花の咲かむまで

～伝統に学ぶ、記憶に残る、未来に向けて～

当番幹事学年になり、改めて、清陵とは、と自らに問うべく「写真でつづる清陵の百年」、これまでの「東京清陵会だより」に目を通してみる。創刊号は1990年、25年前だ。その中から諏訪の気候風土、環境の厳しさ、個性的な教師、先輩、校歌、校訓幟、学友会、様々なものが校風を織り成し、清陵生に影響を与えてきた歴史と伝統を感じる。

さて、創立120周年、我々は、会報に、総会当日にどんな想いを込めるか、居酒屋で度重なる談論を続けた。「母校の誇りは人材だ」「校歌にある国の基を興し、世界に想いを馳せる有為な人材を輩出することが使命だ」、これらの声をもとに校歌最後の一節「理想の花の咲かむまで」にその想いを込め、テーマとした。周年の区切りとして「伝統に学ぶ」、いまを伝える「記憶に残る会」、そして「未来に向けて」を基本コンセプトに定める。

「伝統を知る」では会報に「会報からみる10年史」、母校の誇り(著名人一覧)、

「誌上美術展」を特集した。「記憶に残る会」では同期らしさを活かし、会報では同期東京在住医師による「健康座談会」を掲載、懇親会では「諏訪響有志ほかの演奏」、地元蔵人企画による「地酒コーナー」を設置する。そして「未来に向けて」では、会報で10年後の東京清陵会を語る「若手座談会」、総会当日は東京清陵会オールスターパネリストによる「ボーダレス社会を考える」パネルを企画した。会報はどの頁も愉しんでいただけの特集を盛り込んだ。じっくり味わっていただけたら幸甚だ。そして120年の伝統に一人ひとりが想いを巡らせ、10月4日、アルカディア市ヶ谷に一人でもたくさんの同窓生にお集まりいただけたら、これ以上の喜びはない。周年記念で会報、総会当日とも今までにないプランをご了解いただいた、諸先輩、同輩に謝意を申し上げ、当日が盛会となるよう、あらん限りを尽くしたい。

(82回生・北原謙)

Contents

総会特集

120周年記念パネルディスカッション	
清陵発 ボーダレス社会を考える	2
寄稿 母校に期待すること 岡奈津子	4

120周年特集①

東京清陵会「この10年とこれからの10年」	
会長挨拶/会報からみる10年史	5

120周年特集②

東京清陵会「これから10年」	
若手座談会～魅力・課題・10年提言～	6

120周年特集③

各界で活躍している同窓生は	
母校の誇り	8

120周年特集④

誌上美術展	10
-------	----

120周年特集⑤

総会懇親会にいろいろな趣向を凝らして	
皆様をお待ち申し上げます	12

(当番幹事82回生企画)

82回生同期医師による座談会

「中高年の健康を考える」	13
活性化ワーキンググループ4年目活動報告	16
号外アンケート調査結果	17
同期会活動紹介 62回生	17
同期会活動紹介 59清陵会(東京)	18
同窓会活動報告 大学・職場	19
学生会通信	20
清陵勉強会150回記念	21
東京清陵会総会報告	22
会計報告	23
2014年東京清陵会会務報告	
年次計画/訃報 など	24

2015年度

東京清陵会 第49回定期記念総会案内

■日時:2015年10月4日(日) 11時～16時30分

●総会:11時～11時40分

(10時30分より受付開始、昼食の準備はございませんので各自でお取りください)

●パネルディスカッション:12時30分～14時10分

●懇親会:14時30分～16時30分

■場所:アルカディア市ヶ谷(私学会館) 3階「富士」/総会のみ 4階「飛鳥」

東京都千代田区九段北4-2-25 電話03-3261-9921

※市ヶ谷駅(JR、東京メトロ有楽町線、南北線、都営新宿線)下車、徒歩2分

■懇親会会費:8,000円(57回生以前は無料ご招待、学生は2,000円)

※当番幹事:82回生、次期当番83回生、

サブ幹事92回生、102回生、112回生(今年度から110回代もサブ幹事に)

※詳細は12頁を参照ください。

※東京清陵会ホームページもご覧ください。

●ご面倒ですが

出席、欠席いずれの場合でも 同封の返信用はがきにご記入の上、9月11日(金)必着にてご返送ください。

総会特集

120周年記念パネルディスカッション

清陵発 ボーダレス社会を考える

●パネリスト登場 小林和男氏／藤森照信氏／伊藤洋一氏 寄稿:岡奈津子氏

120周年記念、25年ぶりの休日開催で、東京清陵会オールスターパネリストによるドリームパネルが実現する。政治社会ジャーナリストの視点で小林和男氏(62回)、建築を通した暮らしの視点で藤森照信氏(68回)、産業経済、エコノミストの伊藤洋一氏(71回)の三氏が登壇。会報取材での前哨戦でも熱い想いが伝わる。中堅・女性を代表し、ジェット口の岡奈津子氏(95回)も寄稿で議論に参加。当日は、ボーダレス社会での明日の日本の在り方、日本人の生き方にも議論の展開を期待。



小林和男(62回生)

■茅野市玉川出身。東京外語大卒。NHK記者、モスクワ支局長など。海外ウィークリー、NHKスペシャルキャスター。解説主幹、作新学院大学教授を経て、フリージャーナリスト。著書「エルミタージュの緞帳」(日本エッセイストクラブ賞)他。

清陵の先生が
職業選択の契機

僕が東京外語にいき、ジャーナリストを志したことは、中学の先生の影響が大きい。地元の新聞に載った僕の投書を読んで「おもしろい、新聞記者になれや」の一言で道が決まったのだから教育は恐ろしい。特派員になれば会社の金で外国に行けると考えたのだから単純なものだ。清陵で志望校を考えていた時世界初のスプートニク・人工衛星をロシアが打ち上げ世界中で大騒ぎとなった。そうだロシア語をやれば、特派員になれると東京外語のロシア語学科だけに願書を出したのだから単純極まりない。

ロシア特派員時代に
学んだこと

東京外語を出て運良くNHKに合格し、運良くモスクワ特派員に任命された。意欲は有るのだが言論統制、情報管理の共産主義体制はまともな仕事をさせてくれない。ストレス解消のため通ったプール

でトレーナーと仲良くなった。あるとき、特別なプールに案内された。ジャンプ競技用の素晴らしいプールで若いきれいな女性たちが泳いでいる。特権階級の連中の姿を見たぞ!だが妙に静かだ。実は彼女たちは聾啞者だった。ロシアと言えば、特権階級というのが、弱者に配慮する一面もあったのだ。物事は単純に判断してはならないという教訓になった。今メディアが伝えるロシア情報は裏を見ないものばかりだ。

仕事のダイナミズムと転機

ロシア特派員2年目のとき、失脚していたフルシチョフ元首相が死亡したという情報をつかんだ。フルシチョフはスプートニクを打ち上げて、僕をロシアに導いた恩人とも言える人物。取材の許可は下りるはずもないが、「ダメモトだ」と思い、暗いうちに墓地に入り込み、夜が明けて葬儀の様子を撮影した。それが、NHKのニュースで流れ、世界的な大スcoopとなった。ロシア側からなんらかの報復があると思ったが、結局なにもなかった。このとき学んだ。タネを播かなければ収穫は無い。タネを播いても必ず収穫があるとは限らない。だめもと精神が僕の信念となった。その後、ゴルバチョフやブーチン、ロストロポーヴィッチやプリセツカヤなどタネを播いた結果が実った付き合いになった。

後輩へのメッセージ

簡単に情報を信じるなということ。毎年僕は合宿と称してロシアを知るツアーを企画し、知人や講演で知り合った方々にロシアを自分の目と耳と舌で味わって頂いている。今年はロシアが怖いと参加を最後まで躊躇していた弁護士が、旅の最終日に「ロ

シアに亡命したい!」と発言し合宿仲間を大笑いさせた。ダメモトの精神と表と裏から丸く見る世界の醍醐味を、失敗と成功の体験でお話したい。(取材・構成・小野隆吾)



藤森照信(68回生)

■茅野市宮川出身。清陵では心理学研究会に入り、学友会の活動にも注力。東北大学大学院博士課程を修了。東京大学大学院博士課程を修了。東京大学生産技術研究所にて同教授に就任。現在工学院大学特任教授、東京大学名誉教授。建築史家として『明治の東京計画』(岩波書店刊)などを著述、建築家としても茅野市(神長官守矢資料館)などを手がける。

清陵時代の思い出

社会に出てから分かったけど、清陵は極めて変なところだった。戦前の旧制高校的な雰囲気が色濃く残っていて、めちゃめちゃ自由な校風だった。先生にわざと難しい質問をして先生の間違いを指摘したりしてね。でもみんな先生を尊敬していた。地元紙に校長先生が勉強、勉強といった受験第一的な発言が掲載されたので、学友会で攻撃した。校長先生に取材に行くと、新聞が私を言ったことを全部正確に伝えると思っているのかと。そのインタビューを録音しようとしたら、「自分が言った事は撤回はしない。君たちは信用できないのか」と更に叱られてね。大人は全部分かってたんだな。あんなに強い影響を与える場所はなかったと思うよ。

建築の選択と転機

建築を志したのは清陵時代だ。進路を決める際、純粋な理系も純粋な文系にも進みたたくなく両方をやりたかった。建築は文系と理系の中間だと思った。

一番の転機は45歳の時に神長官守矢資料館の設計を頼まれた時だ。設計は好きだったけどそれまではしたことは無かった。この建物の目的は文化財である守矢家の資料を諏訪に保管しようとしたもの。守矢家の信仰は縄文時代のもので農耕以前のものを建物に表現しろと言われてもね。現代建築でやろうとしたら問題、伝統建築だと勝負にならない。だから相当苦しんだ。以来設計を続けてるけど変わっていない。ただひたすらやっているだけだよ。

仕事のダイナミズムとグローバルへの思い

海外で仕事をした際、職人の考えは日本と変わらないと分かった時に感動した。物を作っている人たちが持つ共通の気質みたいなもの。自分は職人と一緒に土を塗ったり、木を切ったりするんだ。建築家は鉛筆は動かすけど道具を持ってやってみせる事は普通はしないからね。

自分たちの仲間かもしれないと思ってくれるのかね。建築仲間から先生は職人を尊敬していないと言われるんだけど、一緒になってものを創ってる人をなんで尊敬するんだと答えるんだ。

今はグローバルに建築の依頼はあるが、グローバルになろうなんて思ったことはない。やってるうちにグローバルになったという感じ。建築設計という仕事はこちらから売り込むことはしないからね。

欧米の人は僕の建築に日本の伝統建築にも近代建築にもないものを感じて見に来るんだと思う。建築の発想の源は分からないけど、しょっちゅうスケッチを描いている。似たような感じのものはえらく気に入らないところがあるんだ。

諏訪人に思うこと

諏訪という場所は閉じ込められた世界がある。だからここで育った人は世間から見て特殊なんだと思う。自分にとって

その影響はいい形で働いていると思う。中途半端に外がなかった。井戸の底から空を見ると昼でも星が見えるといった感じだ。現実には縦鉾山の中にいるとそう見えるそう。他の人に見えてないことも見えてくる。次も諏訪には生まれたいと思う。建築をやるかはわからないけどね。

(取材・構成/竹内雅彦)



伊藤洋一(71回生)

■諏訪市中洲出身。祖父、父と三代、清陵。清陵では社会部に所属。安保などの社会問題に関心を持ち、清陵祭で展示を行う他、深志に出向き、意見交換会も。早稲田大学政経学部を卒業、時事通信社を経て、住友信託銀行へ。現在は三井住友トラスト基礎研究所研究主幹。著書に「本当はすごい日本の産業力」他多数。テレビ局のコメンテーターも務める。

清陵から社会へ

出身は諏訪市中洲。実家では多くの本に囲まれて育った。諏訪西中から清陵に入学。清陵には祖父の代から世話になっている。部活は社会部に所属。安保などにも取り組んだが、長野高校や松本深志高校など他校との交流活動を盛んに行なった。

大学は早稲田の政経学部に入學。学生運動が盛んな時代で、授業を受けたのは実質2年間程度ではなかったかと思う。父からの影響もあり、就職は海外勤務を志望。時事通信社に入社し、3年目で念願のニューヨーク勤務となる。その後、海外勤務の経験が活かせる、住友信託銀行に転職。現在は三井住友トラスト基礎研究所の研究主幹として執筆、講演に加えテレビ、ラジオで活動している。

仕事のダイナミズム

世の中の最も新しいものを追うことが、今の私の仕事だ。新しいものを追うなかで、様々な「変化」に出会うことが非常に面白い。変化を見つめる、変化を体験

する、変化の中で時間を過ごす。変化があるから我々は生きていけるのだと思う。文書を書くことが好き。

グローバルへの視点

最近、日本と中国、韓国との関係悪化が話題になっている。近隣の国であっても、重い歴史があるから関係改善には相当の時間と努力が必要だと思う。一方、両国からは非常に多くの旅行者が来日している。日本には世界に誇れる文化と安全があり、それを認めている中国や韓国の人びとも存在するという事。

八百万の神々の国である日本。すなわち、多様性を認める文化を持つ日本を、世界は認めつつある。日本の文化や知恵を世界に積極的に発信し、日本を理解していただける国々を増やす。またそれらの国々とのお付き合いを大事にしていきたいものだ。

ところで、海外での駐在や出張などを重ねるなかで、ふと、日本文化の不思議を感じることもある。そのひとつに、「料理カウンター」がある。包丁を持った板前さんが目の前にいる、隣にいるお客さんが誰か分からない。海外では考えられないシステムだ。詳しくは「カウンターから世界が見える」(新潮新書)で紹介している。

後輩へのメッセージ

「変化」を楽しんで欲しい。変わることを怖がらないで欲しい。

変化を楽しみつつも、30~40歳代の社会人の諸君は、目の前にある仕事にしっかりと取り組もう。

転機での決断と行動

転機は信託銀行に転職したこと。通信社は、もっぱら人に話を聞く仕事。また、記事は誰が書いたかわからない。そんな不満が、転職の契機となった。タイミングよく、中途採用を行っていた住友信託銀行との出会いがあり、海外経験を銀行での研究活動に活かすことができた。

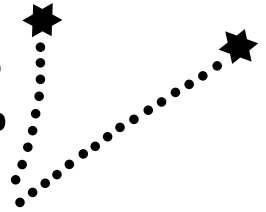
今も、研究員として比較的自由に活動させてもらっている。4月からは、新たにフジテレビの番組に出演。日経のサイトも続く。益々ががんばってゆきたい。

(取材・構成/高橋茂樹)

寄稿

母校に期待すること

岡 奈津子(日本貿易振興機構アジア経済研究所主任研究員)



岡奈津子(90回生)

■茅野市玉川出身。東京大学教養学部教養学科(ロシアの文化と社会)卒業。東京大学大学院総合文化研究科修士課程修了。英国リーズ大学政治国際関係学科博士課程修了(PhD)。現在、日本貿易振興機構(ジェトロ)アジア経済研究所地域研究センター主任研究員。カザフスタンの政治・社会について、フィールドワークに基づく研究を行っている。

中央アジアとの出会い

いま、この原稿を出張先のカザフスタンで書いています。以前に比べれば知られるようになってきましたが、多くの方にとってまだ馴染みのない国名なのではないでしょうか。ロシア、中国などと国境を接し、その領土は日本の7倍を優に超えるものの人口は1700万ほど。アジア系、ロシア系が入り混じる多民族国家ですが、カザフ人は日本人とよく似た容貌の人も多く、道を歩いていると私もよく現地の人にまちがわれます。

私がカザフスタンを初めて訪れたのは、モスクワに留学していた1990年末のことでした。その後、大学院を経て、発展途上国や新興国の調査研究を行うアジア経済研究所に就職。カザフスタンを中心に中央アジア地域を担当しています。1991年のソ連解体後の混乱を乗り越えたカザフスタンは、豊富な天然資源を武器に今世紀に入ってから高成長を続け、いま一人あたりGDPではロシアをしのご豊かさを手にしています。

私が清陵で学んだのは1984~87年。

チェルノブイリ原発事故が起こり、ゴルバチョフ共産党書記長(のちに大統領)が始めた改革(ペレストロイカ)によって、ソ連が大きく変わろうとする時期でした。大学で学ぶ外国語をロシア語に決めたのは、そんな時代の変化もあったと思います。将来、ロシア語を使う仕事に就くことになるとは、当時は想像すらしていませんでしたが。

日本への高い関心

カザフスタンに限らず旧ソ連地域は非常に親日的です。「独自の文化と伝統を守りつつ、勤勉さと高度なテクノロジーで経済発展を成し遂げた国」というのが、日本に対する典型的な見方です。自動車を筆頭に日本製イコール高品質、という考えが定着しており、最近では化粧品や紙おむつも人気があります。なお、中央アジアでポジティブな日本人観が広まったことには、第二次世界大戦後に抑留された元日本兵の方々の貢献もあります。私がいま滞在しているアルマティ市内にも、彼らが半世紀以上前に建てた建物がまだあちこちに残っています。

こうした日本への高い関心に比べて、日本人の中央アジア諸国に関する知識は非常に限られています。たまにマスメディアに取り上げられるときも「世界の辺境」扱い。他方、カザフスタンの人々の日本理解もかなり表面的で、「日本人は5歳になるまで決して子供を叱らない」など、我々自身が聞いたこともないような説もまことしやかに語られています。こうした中央アジアへの偏見と日本についてのステレオタイプを壊していくのが、私のささやかなミッションであると考えています。

身近な世界の大切さ

いまこそロシア語で現地調査を行い、

英語で書いた論文を国内外の学会で発表し、日本語がペラペラの外国人の同僚たちと日々接している私ですが、大学生になるまで日本人以外の人と話すのはほぼ皆無でした。私と同世代の地方出身者は、おおむね似たり寄ったりではないでしょうか。また当時は、地元の中小企業に勤める父がタイの工場で働き、二つ上の姉(清陵出身)がアメリカでフリーライターになり、二人の子供を育てることになるとは思いもしませんでした。

いまは日常生活の中にも、異なる文化的背景を持つ人々に触れる機会がたくさんあります。私がいま住んでいる東京都江戸川区にはインド人コミュニティがあり、近くの公園ではインド人親子がクリケットをしている姿を見かけます。息子が通う保育園にも、様々なバックグラウンドを持つ子供がいます。

こうした時代にあえてグローバル化を唱えることには、私はあまり意義を感じません。それよりも、次世代を担う若者たちが自分自身のなかにある「ボーダー」を克服できるようにすること。それが今後の日本社会にとって重要な課題になるのではないのでしょうか。親が外国出身であったり、数世代にわたって日本に住んでいるけれど外国にルーツを持つクラスメイトを尊重し、対等につきあうことができるか。「ガイジン」に見える人に、言葉が通じないと決めつけず、きちんとした日本語で話しかけることができるか。「海外では」というときに欧米諸国のことばかり念頭に置いていないか。「貧しい国のかわいそうな人たち」を助けることだけでなく、すぐ近くにある貧困にも目を向けられるか。反骨精神と自分の頭で考えることの大切さを教えてくれた我が母校が、そうした問題に気づく人材を育ててくれることを願っています。

120周年特集① 東京清陵会「この10年とこれからの10年」 会長挨拶/会報からみる10年史

母校創立120周年の節目に、東京清陵会「この10年とこれからの10年」というテーマで若手座談会を特集します。背景には、若手も参加しやすい同窓会にしたいという思いがあります。まず「会報からみる10年史」によってこの10年間の足跡、変化を会報から探り、これからの10年を考える材料にします。次に、次世代を担う30代から40代の皆さんに、若手座談会で過去にとらわれない斬新なアイデアを求めます。これらを会報で若手中堅世代が読むことで、次世代ワーキンググループの出現に期待します。

同窓会は、交流し、学び、 母校を思うこと

ここ数年の東京清陵会を活性化するワーキンググループの活躍により、それまでの会報発行と総会中心の同窓会活動から、新卒歓迎・学生交流会やミドルの交流会など多くの行事により、幹事学年以降の年次に偏っていた参加者が、それ以前の若年層の参加者も増えて活発化し

てきた。これらの行事に参加した学生やミドル層は、幅広い分野で活躍するOB講師陣との出会い・交流に、改めて清陵を意識し、同窓会の存在、魅力を実感したのでは。今までは、当番幹事担当を機会に同窓会に参加し、その後同期会が発達するケースが多かったが、これからは、幹事学年まえの若い年代がフェイスブックなどSNSを利用しての清陵に関する情報交換により、すでに同期などと

横のつながりができてきているので、このグループが増え、横のつながりのできた20代、30代、40代の参加者が増えることでより魅力ある東京清陵会に発展が期待できる。このため、ホームページ、会報、イベントの充実および会員の持つ情報の発信に注力します。同窓会に求めるものは世代により異なるが、交流し、学び、母校を思うことは一緒。青・壮・老の皆さん、総会で交流しましょう。
(東京清陵会 会長 藤森宏一)

会報からみる10年史 ～会報第16号～第25号の編集テーマと特集を振り返る～

(凡例) A:編集テーマ B:特集記事

■第16号(編集72回生)

A:学友会・クラブ活動の今と昔 B1:それぞれの青春時代 B2:魅力ある「東京清陵会」に～会長就任のご挨拶 小川勝嗣氏(59回生) B3:東京清陵会17年の歩み～林尚孝前会長に聞く

■第17号(編集73回生)

A:日本に希望はあるか B1:国際ジャーナリストとして名高い清陵OB同士の談論～「いかげん」は良い加減 小林和男氏(62回生) VS 伊藤洋一氏(71回生) B2:本部総会記念講演「サクセスフル・エイジングを考える～君は鉄槌を三度、振り上げられるか」鳥羽研二氏(73回生)

■第18号(編集74回生)

A:異色対談 清陵&二葉 B1:教育者の背骨は母校の自由な校風だった～守矢早苗氏(67回生) & 江原美規子氏(諏訪二葉高校14回生) B2:清陵OB人物クローズアップ①次世代人工心臓の開発で世界をリード～山崎健二氏(82回生) ②少子高齢化モデルを確立し世界に貢献したい～大滝精一氏(74回生)

■第19号(編集75回生)

A:100回を超え、ますます活況を呈する清陵勉強会 B1:清陵勉強会と現在の私の活動～中村平治氏(50回生) 他講演者11名 B2:清陵勉強会テーマと

講師一覧

■第20号(編集76回生)

A:異色対談 女子アナ&漫画家 B1:二人の異才も意外!真性「清陵っ子、だった～小口絵理子さん(フリーアナウンサー)&山田孝太郎氏(漫画家) B2:同窓会記念講演「私の中のファンダメンタルズ～自身の研究とそれを支え続けた清陵の精神」小池康博氏(76回生)

■第21号(編集77回生)

A:諏訪と清陵～我々の原点は諏訪であり、清陵である B1:諏訪の首長、諏訪の未来を語る～それぞれの街づくりのための取組みとお薦めベスト3 B2:諏訪を元気にする77回生

■第22号(編集78回生)

A:未曾有の大災害の渦中という歴史の転換期にいる僕らにできることは何だろう? B1:いま、僕らにできること①大船渡3.11～同窓生はこう戦った②ネットワーキング社会へ～78回生、コミュニケーションの明日を語る③三澤勝衛の原点へ～78回生、農の明日を語る B2:東京清陵会新会長あいさつ 藤森宏一氏(63回生)

■第23号(編集79回生)

A:再び槌を振り上げて～われわれは何を求めて生きるのか、いま原点を問う《清

陵魂はいずこへ》B1:自然と人間①新田次郎のころ～生誕100年を迎えて②オーロラを求めて～南極観測隊長 小口高 B2:科学技術と人間～テクノロジー最前線①諏訪の頭脳と精密技術が生んだ人工心臓②世界最強のコンクリート③79回生技術者対談

■第24号(編集80回生)

A:自反而縮雖千萬人吾往矣～諏訪の地を離れても「清陵の魂」は生き続けている B:世界を舞台に活躍する5人の方々①民族融和を目指す指揮者～柳澤寿男氏(93回生) ②フォトニクスポリマーの研究成果を社会に還元～小池康博氏(76回生) ③日本の若者、清陵生に伝えたいこと～柳澤共榮氏(65回生) ④世界の安定と日本の安全～宮坂宜男氏(80回生) VS 伊藤力司氏(56回生)

■第25号(編集81回生)

A:吾等たたずば世をいかん～心の中で生き続ける「清陵」とは B1:清陵OB、OGの音楽家へインタビュー①柳澤寿男氏(93回生) バルカン室内管弦楽団音楽監督②浜まゆみさん(96回生) マリンピスト③三浦久氏(67回生) フォークシンガー B2:東京清陵会ワーキンググループの活動～立ち上げ! 中堅世代 (構成/宮坂忠利)

120周年特集② 東京清陵会「これから10年」

若手座談会～魅力・課題・10年提言～

「これからの10年 若手座談会」2015年4月18日、六本木ヒルズクラブで若手座談会を開催しました。当日は91～103回生計7名が参加。「これからの10年で同窓会をどうしたいか」というテーマで自由に語ってもらいました。話は同窓会参加のきっかけから、同窓会の魅力、課題・提案へと進み、理想の姿にまで及びます。

参加者

藤森裕司(91回生) 金子真由美(91回生)
牛山直子(91回生) 原 豊(94回生)
荒木健太郎(99回生) 藤本雅子(99回生)
高林祐介(103回生)

荒木〈司会〉 まず、自己紹介を兼ねて、同窓会に参加するようになったきっかけ等お話いただければと思います。99回生で学年幹事をやっている荒木健太郎と申します。私の場合、人脈を広げたいと思ったのが同窓会に参加するようになったきっかけです。

原 94回生の原豊です。社内の清陵同窓会に参加したことで清陵との関わりが復活しました。

藤森 91回生の藤森裕司です。同窓会は行かなきゃいけないものだと思っていて、大学時代に行ったのがきっかけでそれ以来20年くらい幹事をやっています。

藤本 99回生の藤本雅子です。3回前の同窓会に初めて参加したんですけど、いろんな年代の方やご活躍されている方もおりました、結構刺激を受け楽しかったです。

高林 103回生の高林祐介と申します。同窓会があるって知ったのは3年ほど前なんですけど、諏訪の話題などで気持ちが和んだりするので非常に貴重な機会だと思いますし、つながっているという安心感もあるのでそれを楽しみに参加させていただいています。

金子 91回生の金子真由美と申します。たまたま同窓会やっていると聞いて参加したところ、兄も参加していて気持ちが盛り上がりました。久しぶりの人に会うのはすごく楽しいし、また参加したいなという気持ちになります。

牛山 同じく91回生の牛山直子です。同窓会は前回が初めてだったんですけど、清陵生には取引先の方とかもいて不思議な出会いがあります。

荒木 次に、同窓会の魅力について語っていただければと思います。

原 同窓会をきっかけに同世代の人たちと交流を深めていきたいと思っています。同じ悩みや課題を共有できる人たちと話ができたり、地域の活動と繋げられるネットワークがあると、交流の輪が広がるような気がします。

牛山 一つ下の学年は、結構東京で集まっていると聞いています。同窓会が仲間の集まるきっかけになればいいと思います。

荒木 私も、同窓会を仲間が集まるきっかけにしてもらえたらそれだけでいいのかなと思っています。今はSNSやフェイスブックがあるので、その繋がりで声かけして来てくれたりします。懇親会で高校時代とはまた違った交流が生まれて話ができるのがいいと思います。

原 卒業後20周年の学年同窓会を諏訪でやったんですけど、そういうきっかけがあって清陵との繋がりが復活すること

もあります。

金子 清陵に付属中ができたってことを同窓会に出て初めて知ったんです。バーチャルの場って必要だと思うんですが、リアルな場で耳にしたり目にしたりする機会もたまにあるといいなと参加して思いました。

藤森 同窓会に先生を呼ぶのはいいですよ。幹事の学年の担任の先生を呼ぶとか。結構みんな集まる気がします。

原 20周年の学年同窓会のときには先生もいらっちゃって、先生からいただく言葉は久しぶりに聞くとそれはそれで頑張ろうという気持ちに繋がります。

藤本 昨年クラス会をやったんですけど、先生にも来ていただいたら半数近く集まりました。先生も生徒も、会って話ができるのはうれしいのかなと思いました。

荒木 確かに、先生に会いたくて参加する人もいるかもしれませんね。さて、ここからは同窓会の課題・問題点やそれに対する提案など話していただければと思います。

金子 この年代って公私とも忙しいので、リアルな場に出席するって負荷が高いんですよ。なので、バーチャルの場で繋がっていた方が気楽に参加できます。

荒木 例えば、ネットで同窓会会場を繋いで自宅にしながら会場の様子が見られるとか、東京と諏訪で繋ぐとか、たぶんできると思うんですけど、そのためには

医療法人社団 淳友会
わたクリニック
在宅医療 緩和ケア

東京都葛飾区柴又1-2-1 ARB 1F
☎03-5648-7025 FAX 03-5648-7035
URL:<http://www002.upp.so-net.ne.jp/gf7jwata>
診療部長 行田泰明(82回生)

公立昭和病院
整形外科

東京都小平市花小金井8-1-1
☎042-461-0052 FAX 042-464-7912
村松俊樹(82回生)

ネット環境の改善とメンテナンスは課題ですよね。

金子 それこそフェイスブックぐらいにしておけば見たいときにだけ見ればいいし、幹事の負荷もそれほど高くなくて済むのでちょうどいいかなと思います。

荒木 配布物もいずれPDFにしようとか、いつでもホームページで見られるようにした方がいいという声もあります。

高林 ホームページも見づらい面があったり、スマートフォン対応になっていないとか、内容が古いとか課題はあります。

荒木 おそらくWEBのプロはどの学年にもいると思うので、やろうと思えばクオリティの高いものができると思います。費用面の課題は会費をどう集めるかとか。会費を払うのが嫌だというより払込方法がわからない人が多いのかなと思っています。より多くの同窓生から会費が集まる仕組みを作る必要がある。例えばコンビニでも払えるようにするとか、仮に費用がかかるとしても、もっと効率良く集められるのであれば工夫すべきだと思います。総会への参加については、まずは学年幹事としてできるだけ多くの同期生を集めようと思っています。

藤本 3期前の同窓会に初めて参加したときは79回生の方が当番幹事で、私たち99回生がサポート幹事だったんですけど、皆さん再会をととても喜んでいて、なかには卒業以来という方もいて楽しそうでした。一緒に参加する仲間がいるとか、うまいきっかけがあれば参加もするし、参加してよかったと思ってもらえるのかなと思いました。

金子 確かに誰が参加しているかわからないと、行った時の楽しさが想像できないし、日頃繋がっていない人に「一緒に行こう」って言えないので、事前にフェイスブックで繋がっていることが必要だと思います。

藤森 当番幹事をやった学年は、その翌年から横の繋がりが活性化するんですかね。

牛山 55才になると、仕事が一段落し時間に余裕のできる人が増えるので、同期会をやっているという話を聞いたことがあります。同窓会の当番幹事をやったことは何らかのきっかけになると思いま

左から、荒木健太郎、原豊、藤森裕司、藤本雅子、高林祐介、金子真由美、牛山直子



す。

荒木 それでは最後に、これからの同窓会でやりたいことや理想の姿などについて話していただけたらと思います。

藤森 同期の輪をもう少し広げて、ネットワークをちゃんと作りたいですね。先生を呼ぶとか長く繋がるようなものを残せればと思います。

荒木 99回生はバスケット部仲間ではフェイスブックを作っていて、そこから広がって50人くらい繋がっていると思いますが、SNSという仕組みがあつてよかったと思います。

高林 フェイスブックのグループを作るという話なんですけど、例えば座談会や勉強会の報告を誰かが作っているものを見ながらリンクで共有して活性化させるとか、作ったその先があつた方がいいと思います。社会人になると連絡が取りづらくなるので、学生のうちから繋げていければこれから先の人たちの仕組みはできていくのかなと思いました。

荒木 これは高校との連携になると思うんですけど、卒業すると同窓生になる仕組みの周知が必要だと思います。

原 これから10年という私は53才で、そろそろ自分の身近なこと（仕事から家族、プライベート）を中心に考えなくてはいけない年代になってくると思うんです。そうしたとき、同窓会のネットワークで悩みを共有できたり、アドバイスをもらえたり、自分が東京にいて親の面倒を見られなくても親同士が助け合えるとか、生活と清陵・諏訪とのネットワークがあると、ネットワーク作りをしていくとありがたいと思います。

金子 地元で観光に関する仕事をしている後輩がいて、彼は諏訪の観光がどうし

たらもっと盛り上がるか悩んでいるんですね。そんなとき、諏訪と東京でお互いに助け合うことが何らかの形でできないかなと思っています。もう少しネットワークが広がって、清陵の知り合いでない人にも助け合いの言葉を投げかけることができればいいかなと思います。

原 情報通信が発達してグローバルベースでものすごく密接になっているのに、東京と茅野は相変わらず遠いみたいなのところもあるので、ここをもっと繋げていきたいと思っています。実家の酒屋を継いでいる幼なじみがいて、地酒の紹介等をフェイスブックに載せたりしているんですけど、それを東京の友だちに見てもらっただけでも宣伝になると思います。

金子 同窓会にただ集まるだけでなく、本質的に必要とし合う関係作りができれば参加したいということになると思います。

原 東京清陵会という大きな基盤を生かして支えたり支え合ったりという関係ができるようなことを考えていけると、もっと密接に使おうとか、東京にいるメンバーも集まりやすくなると思います。

牛山 ネットワークという意味では、諏訪に帰りたけれど仕事どうしようとか、逆に東京でこういう仕事をしてくれる人を探しているとかあったとき、先輩にしる後輩にしる関連する人と繋がっていたら情報交換できるし、仕事に限らずそういう場になればいいと思います。

荒木 今日は皆さんにお集まりいただき、思いの丈を語っていただきましたが他よろしいでしょうか。それでは、これで座談会を終わりたいと思います。

(取材・構成／宮坂忠利)

120周年特集③ ~各学年(1~82回生)、ジャンルから著名人を紹介~ 各界で活躍している同窓生は母校の誇り

周年を記念し、最後の同窓会名簿発刊の機会に、全国レベルで活躍する同窓生を広く紹介し、母校の誇りにし、後輩の励みになればと企画しました。紹介対象は、今回は1回から我々82回の80学年(53、54回なし)で、同窓会名簿、東京人名録、会報を参考に当番幹事会報委員会にて検討。学年一人とジャンルで紹介しておりますが、限られた資料で、また、1学年に多数著名人が存在する場合などもあり、必ずしもすべての著名人が網羅されているわけではないことをご了解ください。(82回生会報編集委員会責任企画)

注記:本特集は活躍した同窓生を紹介する企画で、当番幹事会報委員会が同窓会名簿や会報への登場者を参考に選出しました。当人の代表する所属・肩書は同窓会名簿、人名録、ネット情報を参考に掲載した関係で現職と異なる場合があります。また、変動するため役職の前・元・現職等の表記は割愛しております。なお学年で女性の選出が無かったため、女性限定のジャンルも設けました。

1回生	岩波 茂雄	岩波書店創業者
2回生	森山 藤一	歌人(アララギ 雅号/森山汀川)
3回生	茅野儀太郎	茅野蕭々は筆名。ドイツ文学者、慶應義塾大学教授、妻は茅野雅子
4回生	藤原 咲平	気象学、中央気象台長、東大教授
5回生	吉川 晴十	海軍技術少将、東京大学工学部教授、日本鉄鋼協会会長
6回生	今井登志喜	西洋史学者、東京帝国大学教授
7回生	千野 光茂	京都帝国大学助教授、諏訪清陵高校初代校長、同窓会長
8回生	両角 業作	陸軍中將
9回生	植松七九郎	慶應義塾大学教授
10回生	片倉 三平	日東紡績社長
11回生	藤森 成吉	小説家、劇作家
12回生	中澤 正英	片倉工業社長
13回生	宮坂伊兵衛	宮坂醸造会長(真澄、神州一味噌)
14回生	篠遠 喜人	国際基督教大学学長、東京大学教授
15回生	古村 啓蔵	大日本帝国海軍少将、戦艦武蔵第二代艦長
16回生	有賀 幸作	大日本帝国海軍中將、戦艦大和第六代艦長
17回生	清水多嘉示	彫刻家、日本芸術学院会員
18回生	進藤武左衛門	水資源開発公団総裁
19回生	武井方介(片倉)	辰野町町長、片倉工業専務
20回生	岩波 益雄	日本光学工業社長 *ニコン
21回生	高橋 庸弥	内務省鳥取県知事
22回生	八幡 一郎	上智大学教授、東京教育大学教授、日本民俗学会設立発起人
23回生	林 太郎	大正海上火災保険会長
24回生	北原 覚雄	京都大学教授、東京大学教授
25回生	尾澤 修治	朝日監査法人名誉会長、日本公認会計士協会会長
26回生	金子金治郎	広島大学文学部学部長・名誉教授
27回生	小松 醇郎	数学者、大阪大学教授、京都大学教授
28回生	五味 智英	万葉学者、東京大学文学部長
29回生	宮坂 順三	宮坂醸造社長
30回生	藤森 栄一	考古学者
31回生	藤原 寛人	作家(筆名 新田次郎)
32回生	矢沢 大二	東京都立大学教授、日本地理学会会長
33回生	佐藤 光夫	運輸事務次官、京成電鉄社長
34回生	寛 正典	映画監督
35回生	山田 六一	三協精機製作所 共同創業者・社長
36回生	小口 禎三	岩波映画製作所社長、同窓会東京支部長
37回生	飯島 重孝	東京大学教授
38回生	小松 雅雄	経済学者、早稲田大学政治経済学部長
39回生	村上(岩波)利雄	東洋軒会長
40回生	宮坂 宥勝(勝郎)	名古屋大学名誉教授、真言宗智山派管長

41回生	飯島 宗一	名古屋大学学長・広島大学学長
42回生	小平 祐	旭電化工業、日本農業取締役会長、同窓会東京支部長
43回生	山田 譲	参議院議員
44回生	高木 章雄	東北大学教授
45回生	岩波 一寛	中央大学名誉教授
46回生	小池 篤	東京水産大学名誉教授
47回生	矢ヶ崎昭彦	電研精機研究所創業者・社長
48回生	小口 高	東京大学名誉教授、第12次南極観測隊隊長
49回生	名取 小一	なとり代表取締役
50回生	宮坂 広作	東京大学名誉教授
51回生	横川 端	すかいらーく創業者
52回生	林 尚孝	茨城大学教授、東京清陵会長、同窓会長
55回生	諏訪 淳	映画監督、岩波映画製作所社長
56回生	渡部 清	横浜国立大学教授、書家
57回生	五味 敏雄	三省堂社長
58回生	齋藤(林)寛	医学者、長崎大学学長
59回生	高橋 文利	下諏訪町長、朝日新聞社論説副主幹、立命館大学教授
60回生	宮澤 政文	宇宙開発事業団筑波宇宙センター所長、静岡大学工学部教授
61回生	川村昌平	養命酒製造会長
62回生	塩澤 瑞人	東京海上火災専務取締役、東京海上アセットマネジメント投信社長
63回生	赤羽根 巖	内科医、東京保険医協会副会長
64回生	芳澤 宅實	香川大学副学長
65回生	溝口 忠昭	東北大学環境保全センター教授
66回生	長田 敏行	東京大学名誉教授
67回生	小飼 三雄(小飼一至)	国際ソムリエ協会会長
68回生	藤森 照信	建築家、東京大学教授
69回生	八巻 和彦	早稲田大学教授
70回生	一瀬 益夫	東京経済大学副学長
71回生	伊藤 洋一	三井住友トラスト基礎研究所首席研究員
72回生	小池 和幸	北海道大学教授
73回生	鳥羽 研二	杏林大学医学部教授(高齢医学)、国立長寿医療研究センター総長
74回生	岩本 敏男	NTTデータ社長
75回生	今井 武	本田技研工業・役員待遇参事
76回生	小池 康博	工学者、慶應義塾大学教授
77回生	武井 一巳	ジャーナリスト、評論家
78回生	両角 寛文	KDDI副社長
79回生	三井 健郎	竹中工務店・技術研究所副所長
80回生	有賀 修二	ジャパンディスプレイ社長
81回生	篠原 菊紀	諏訪東京理科大学教授(脳システム論)
82回生	山崎 健二	東京女子医大教授・心臓外科

【地学天文気象】

4回生	藤原 咲平	東京大学教授、中央気象台長
24回生	河角 廣	東京大学教授地震研究所所長
31回生	古畑 正秋	東京大学教授、東京天文台長
38回生	諏訪 彰	気象庁地震観測所所長
41回生	増澤讓太郎	気象庁長官、同窓会東京支部長

【出版・新聞社関連】

1回生	岩波 茂雄	岩波書店創業者
57回生	五味 敏雄	三省堂社長
58回生	小松 敏郎	学習研究社社長
63回生	武居 俊樹	小学館漫画雑誌編集長
64回生	白川 浩司	文藝春秋常務取締役、「諸君!」「文藝春秋」編集長

【醸造関係(酒造・味噌)】※同一会社は初出者を掲載

3回生	土橋 四郎(平一)	舞姫酒造 創業者
4回生	北原 仁	山梨銘醸(七賢)社長
6回生	藤森 傳一	竹屋社長(タケヤ味噌)
6回生	高橋巳喜之助	高天酒造社長
8回生	黒河内義夫(古村)	高遠町町長、高遠酒造(黒松仙醸)社長
13回生	宮坂伊兵衛(宮坂登)	宮坂醸造会長(真澄、神州一味噌)
30回生	小松 園治	麗人酒造社長
58回生	林 善八郎	ひかり味噌社長

【芸術家(彫刻家、画家)】

13回生	中川 紀元(有賀紀元次)	洋画家、帝国美術学校教授
14回生	武井 武雄	童画家
17回生	清水多嘉示	彫刻家、日本芸術学院会員
17回生	高橋貞一郎	洋画家
24回生	矢崎 虎夫	彫刻家
25回生	宮下 琢郎	画家(宮下碧路)
37回生	立川 義明	彫刻家
49回生	細川 宗英	彫刻家、東京芸大教授
56回生	渡部 清	横浜国立大学教授、書家
58回生	木之下 晃	写真家
59回生	高橋 靖夫	画家、女子美術大学名誉教授
62回生	中村 梧郎	フォトジャーナリスト、岐阜大学教授
62回生	藤森 健司	彫刻家(雅号/藤森汎)

【政界・官僚】

4回生	小平 権一	農林次官、明治大学農学部教授
21回生	高橋 庸弥	内務省、鳥取県知事
31回生	林 百郎	衆議院議員
50回生	矢崎 新二	防衛事務次官、会計検査院長
69回生	清水 訓夫	駐アルジェリア大使、 駐ニカラガ大使、防衛大学校教授
77回生	武居 丈二	福岡県副知事、自治大学校長
81回生	矢崎 公二	衆議院議員

【作家・歌人】

2回生	森山 藤一	歌人(アララギ 雅号/森山汀川)
3回生	茅野儀太郎	筆名/茅野蕭々、歌人
11回生	藤森 成吉	小説家、劇作家
14回生	松井 源衛	アララギ・ヒムロ歌人(雅号/松井芒人)
16回生	小口 太郎	科学者、歌人、琵琶湖周航の歌作詞者
31回生	藤原 寛人	作家(筆名 新田次郎)
69回生	大久保智弘	歴史・時代小説作家
80回生	飯田 譲治	映画監督、シナリオライター、小説家

【その他】

58回生	内山 善一	俳優(芸名 内山森彦)
59回生	堀内 敏宏	NHK解説主幹、小平市教育長
61回生	名取 将	NHKアナウンサー、声優
62回生	小林 和男	NHK解説主幹、ジャーナリスト
67回生	三浦 久	フォーク歌手

【大学長】

7回生	長田 新	広島文理科大学(現広島大学)学長
14回生	篠遠 喜人	国際基督教大学学長
15回生	有賀喜左衛門(通男)	日本女子大学学長

15回生	武居 三吉	京都教育大学学長
18回生	三輪 知雄	筑波大学初代学長
25回生	太田 和彦	図書館短期大学学長
28回生	小尾 希雄	東京都教育長、文教大学学園長
37回生	今井 信雄	成城短期大学学長
41回生	飯島 宗一	広島大学、名古屋大学学長
51回生	戸沢 充則	明治大学学長
51回生	内藤 昌	東京工業大学教授、愛知産業大学学長
58回生	齋藤 寛	長崎大学学長
63回生	小松 正幸	愛媛大学学長

【経営者】※上場企業代表取締役以上 ※学年選出者を除く

14回生	古村 誠一	三菱金属鋁業社長
17回生	有賀 松夫	東洋製罐社長
23回生	花岡 彌六	電気化学工業社長
38回生	藤森 鐵雄	第一勧業銀行会長
41回生	穂苅 實	興亜火災海上保険社長
42回生	河西 計介	阪神百貨店社長・会長
43回生	岩崎 宏	東洋ラジエーター、(現ティラドール)社長
48回生	小山 敏靱	大正生命保険社長
50回生	服部 一郎	セイコーエプソン初代社長
52回生	茅野 實	八十二銀行頭取
62回生	浜 武秀	日東製粉社長
67回生	有賀 馨	良品計画社長
69回生	花岡 清二	セイコーエプソン社長
73回生	原 大	三菱東京UFJ銀行副頭取、双日副会長
81回生	小口 久雄	セガ社長

【地元首長】

4回	金井 清	諏訪市長
7回	塚原 葦穂	諏訪市長、同窓会長
27回	小林 重吉	富士見村村長
57回	清水 澄	原村村長
57回	矢嶋 民雄	富士見町町長
63回	平沢 豊満	箕輪町町長
64回	矢ヶ崎克彦	辰野町町長
68回	矢崎 和広	茅野市長、同窓会長
70回	加島 範久	辰野町町長
74回	今井 竜伍	岡谷市長
75回	柳平千代一	茅野市長

【女性入学初期の活躍された方】

56回生	青木(堀)瑞枝	眼科医、初めての女子入学年度
59回生	金子(飯田)道子	筑波大学医療技術短大教授、 山梨県立看護大学学部長
62回生	岩崎(浜)信子	信越放送アナウンサー、遊話舎代表
64回生	内田(有賀)良子	子ども相談室「モモの部屋」主宰、 心理カウンセラー
67回生	守矢早苗	江戸川区立上一色南小学校校長

【83回生以降の活躍する中堅女性】

86回生	渡辺由美子	厚生労働省医療介護連携政策課長
90回生	岡 奈津子	日本貿易振興機構(ジェトロ) アジア経済研究所地域研究センター研究員
91回生	小松(平出)文美	日本たばこ産業株式会社医薬事業部医薬情報部次長
93回生	上原(野明)三枝	スピードスケート選手
95回生	村上あかね	桃山学院大学准教授
96回生	小口絵里子	日本放送アナウンサー
96回生	浜まゆみ(真由美)	マリンバ奏者

【まとめ】 今回の企画検討を通じて、紹介した方はもちろん、それ以外にも、各界で、本当に多くの同窓生が活躍していることを認識しました。その一部の方をご紹介させていただき、皆様の母校や同窓の仲間に対する思いが、より深くなるきっかけとなれば幸いです。なお、この企画は、同窓会史上、初めての試みで、あくまで暫定版の位置付けです。ご意見をいただきながら、今後の周年幹事に、一層の補充を託したいと考えております。(構成/小野隆吾)

120周年特集④

誌上美術展

～各世代、各ジャンルで活躍される同窓生から作品が集まりました～

この佳節を機に誌上美術展を掲載することになりました。卒業生の中には美術大出身者も多く、各方面で活躍されている方も多数おられます。誌面の関係で紹介する人数は少数ですが、その活躍の一端をお見せ出来ればと思います。今後、プロ以外でも、美術愛好者の発表の場に発展していくことがあれば幸いです。(尚、今回掲載させて頂きました皆さんは、各ジャンルからランダムに選ばせて頂きました)。

(構成/84回生 篠原誠一)



作品① 日本画
矢澤正文(89回生)

作者名：矢澤正文 (89回生)
経歴：東京芸術大学後期博士課程卒
作品介绍：
十一面観音菩薩像 鎌倉時代制作
研究模写 富士見町上 葛木三光寺収蔵

清陵時代の思い出

清陵は自治や校訓からも、改めて士気の高い学舎として在ると思います。当時の校長(小田切先生)の「既に表されたことを理解するだけでなく、わからないことにも果敢に挑んで欲しい」という言葉は、今も私の心に印象深く残っています。私が高2の二期始業式で、校長が話されたヒトコマです。学業に身が入らないなか、おぼろげに進路を考えていたときだったので、そうか!!と、腑に落ちた一言だったんです。で、好きな美術の世界に踏み込んだんです。お陰で四苦八苦していますが、面白いことや、気付きには事欠かない事は確かですね。孟子のあの格言を、横山大観が座右の銘にしていたのを知り、何だか親近感を覚えました。内省と信念をもった能動性の両立、いつの日か、その境涯に立ちたいですね。



作品② 洋画
高橋靖夫(59回生)

作者名：高橋靖夫 (59回生)
経歴：東京芸術大学卒 (油絵科)
作品介绍：地にあるものたち H227.3 × W324.2cm

私の感性の源は信州の里山の豊かさの中にあり、あらゆる存在に生かされて対話の感動が生まれ続ける限り、共生するよろこびを描き続け度いと思います。今度はなつかしい父の画業とその生涯を回想しつつ愛猫と酒と鳥と花と。信州の豊かな光に生かされた父子像を描きました。



作品③ 彫刻
藤森 汎(健司)(62回生)

作者名：藤森 汎 (62回生、本名：藤森健司)
経歴：東京都立大学、パリ国立美術大学卒
作品介绍：ブロンズ彫刻「若人—A」、H65 × W80 × D30cm

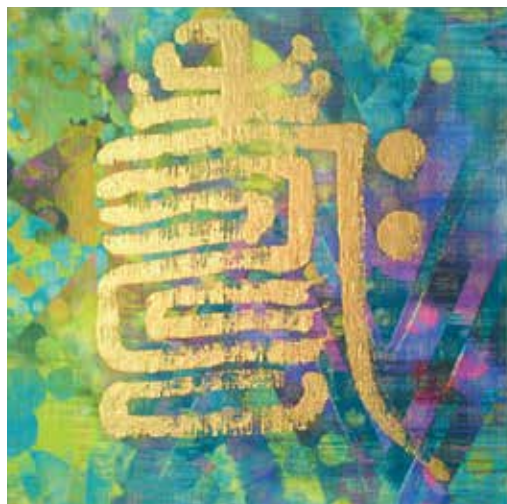
諏訪清陵からは錚々たる彫刻家の先輩達が出ています。私も若い頃パリの美大に学び、「空間が有ってこそ形が存在する、空間はボリュームと同様重要な造形要素である、この考えを学び造形に取り組みできました。軽快なユーモアの表現もテーマの一つです。

清陵時代の思い出

一番鮮明な思い出は母校創立百周年に62回生が幹事年になった事だ。忙しい年齢だったが力を合わせて頑張った。百周年の祝いにブロンズのモニュメント「蒼風」を寄贈する事になった。原型を藤森汎が担当し同期生のカンパで学校玄関に設立され、皆の協力の記念となった。
藤森汎 彫刻作品展 2015年10月10日～11月8日
諏訪市美術館にて開催予定

清陵時代の思い出

中三の秋、父高橋貞一郎の画業は充実期を迎えており、同行した風景制作の現場でモチーフを前に画面を見つめる私は愉快であり不思議な体験であった。清陵入学式の朝、父が突然の病に倒れ、高三の秋の父の死は私の画業出発の日であった。
追伸
父は昭和23年頃、諏訪中の教員であり同窓会員であります。



作品④ 書
篠原誠一(82回生)

作者名：篠原誠一(82回生)
 経歴：東京芸術大学卒(デザイン科)
 作品紹介：壽(創立120周年を寿ぎ)
 (書：顔彩 H30×W30cm)
 壽ぎのめでたさ華やかさを金で、厳かな雰囲気を篆書で表現いたしました。壽の右にある点は、壽の二倍(60×2)の意味をこめました。

清陵時代の思い出

美術部の皆さんと石膏でゴジラを造ったのは楽しかったですね♪。美術の折井先生のお宅に遊びにお邪魔し、本物の甲冑を着けさせて頂いたのもついこの間に思い出されます。



作品⑤ 書
小林正彦(82回生)

作者名：小林正彦(82回生)
 経歴：京都市立芸術大学卒
 作品紹介：Mobile de SHUKI
 (酒器 H5.3 W×6.5 c m)
 木曾漆器、伊藤寛司商店とのコラボレーションによる持ち運べる酒器です。ソトで飲むお酒が格別に旨いことを、この器で知ることができます。「美味しいひとくち」を豊かにしてくれる器。木曾漆器ならではの軽くて丈夫な、モバイル酒器です。 <http://www.kiso.or.jp/SHIKKIdeSHUKI/>

清陵時代の思い出

美術部に入ろうと部室を訪ねると、先輩方が黙々と石膏デッサンをしていて、話しかける余地が全く無かったことが印象に残っています。入部して黙々と続けたデッサンの腕前と、ゴジラの出来栄はなかなかのものでした。



作品⑥ 漫画
山田孝太郎(101回生)



作者名：山田孝太郎(101回生)
 経歴：
 作品紹介：ソードアート・オンライン ファントム・バレット
 今描いている漫画版『ソードアート・オンライン ファントム・バレット』のイラストです。清陵と全然関係なくすみません。銃による心の傷を十字架のように背負っている少女、というイメージで描きました。

清陵時代の思い出

清陵の校風から独立心というか度胸というか、なにかやってみようぞという気概みたいなものを学んだように思います。たぶん。なんか、ほとんどの時期同じ学年に美術部員が自分しかいなくて寂しかったですね。(遠い目)

木之下晃氏追悼



©木之下晃

木之下晃は清陵一年の時の転入生であった。当時の彼は駿足で洒落っ気のある軽い感じで、とても強固な意思を持っているようには見えなかった。
 やがて彼は博報堂に入って広告写真のカメラマンとして写真の腕を磨いたようだ。ところが、私が国分寺の独身寮にいた頃、ふらりと浴衣姿で尋ねてきて「俺はサラリーマンを辞める。広告写真はいくら撮っても使い捨てだ。音楽写真の道に進んで後世に残るような写真を撮りたい。僅かの貯金は家族とのヨーロッパ旅行で使い切って、ゼロからスタートする」

というので、「おい、生きていけるのか」という話をしたことがある。
 こうして彼は音楽写真の道に進み、孤立無援の世界を生き抜いて音楽写真の大家と称されるに至った。その苦勞と努力は並大抵のものではなかったと思う。
 名を成した後、常々云っていた言葉は「決して撮られる人間が嫌がる写真を撮ってはいけない。相手が喜び納得する写真でなければ信頼は得られない。撮る者と撮られる者の信頼関係が無ければ良い作品はできない」であった。彼の写真には凄い力量の裏に相手に対する思いやりと優しさがあったのだと思う。
 (58回生 同級生 石城浩吉)

120周年特集⑤

総会懇親会

東京清陵会総会懇親会のキーワードは、つながりです。①学年対抗コンテストで同期の、②地酒コーナーでは懐かしい地元の味との、③パネリストテーブルではグローバルに活躍する先輩と、そして④自由交流タイム、自分のつながりたい同窓生を発見しましょう。また⑤タテの会では、当番幹事とサブ幹事をつなぐりを、⑥みなが記念手ぬぐいを手につなぐりを。当日は是非楽しんでいただけるよう諏訪人らしいおもてなしに務めます(82回生一同)。

■学年対抗参加人数コンテスト

参加者300人を目標に、①先輩部門(81回以前)、②後輩部門(84回以降)、③女子の三部門でトップ学年を表彰します。8月末、9月15日時点の返信ハガキ集計をホームページに発表します。その後の拡大が勝敗を決します。

■地酒コーナー

清陵同窓生が経営陣を務めたことがある真澄、高天、神渡、七賢を飲み比べてもらうコーナーです。日本酒ファンでなくとも楽しめます。特に真澄からは勝彦氏(107回生)が参加し、振る舞ってくれる予定です。

■パネリストテーブル※

今回の三人のパネリスト(小林和男氏、

藤森照信氏、伊藤洋一氏)とじっくり話したい方、返信ハガキにて各パネリスト先着8名は、懇親会テーブルでパネリストを独占できます。

■自由交流タイム※

交流タイム登録をいただくと、当日受付で交流名簿をお渡しします。交流分野は仕事、趣味、郷里地域、部活なんでも結構です。(20字以内で返信ハガキに登録)積極的に交流したい方のテーブルに向き、お話しください。交流のため名刺か自己紹介カードをお持ちください。

なおP8~9の「著名人」並びにP10~11の「誌上美術展」に掲載させていただいた皆様には、登録いただき、当日、ご出席の程、よろしく申し上げます。

■タテの会(当番幹事10年刻みの会)

当番幹事(今年は82回生)と10年後(92回生)、20年後(102回生)、30年後学年(112回生)のサブ幹事に加え、懇親会では10年前(72回生)、20年前(62回生)、30年前学年(52/55回生)を近くのテーブルに配置、親子孫世代の同窓生と交流ください。

■120周年記念手ぬぐい販売※

会報芸術家頁にも登場した当番幹事アーティストによる手ぬぐいを販売。返信ハガキで予約した方は当日代引、予約なしでも当日受付横で販売。一枚だと700円ですが二枚からだ一枚600円、二枚で1200円とお得です。

※同封返信ハガキに御登録下さい

本部同窓会総会

120周年記念として様々な企画で臨んだ結果、懇親会では紅やのルビーホールが溢れてしまう程の大盛会となりました。中でも印象的だったのは31回生(103歳)のお二人が出席され、万歳三唱までして頂けたことです。この感動を10/4の東京総会、10/24の記念式典で再び味わいたいと思います。皆さん本当にありがとうございました。

(取材/構成 82回生 八幡明宏)

「10年後(2025年)の日本を考える」 ～清陵発、現場で活躍する同窓生が、産業の 視点から日本の課題と処方箋を考える～

パネリストは、原大氏(73回生、三菱東京UFJ銀行副頭取・双日副会長)、小池康博氏(76回生、慶応義塾大学理工学部教授)、黒田茂氏(82回生、JFEスチール・薄板セクター部長)、小松文美氏(91回生、日本たばこ産業・医薬情報部次長)の四氏。発言を拾うと、セッションⅠ、①環境配慮型社会：原氏「成長するアセアン・南アジアへ環境関連な



ど日本の技術力を輸出することがカギ」、黒田氏「三つのエコ視点から家電・自動車などの具体例の紹介」、②人口減少社会：小松氏「女性の活躍する医薬分野でも人材育成には働き方の変革を」、小池氏「高齢化社会の生きがいにこそテクノロジーを役立てる」、③ボーダレス社会：黒田氏「自他の違いを理解、世界どこでも活躍する場はある」、原氏「世界の閉塞感を打ち破るのは日本文化。インバウンドで日本を理解してもらおう」、小松氏「突然の変化は異分野から起こる、リー

ダシップを」。セッションⅡ：10年後では、四氏から、夢のある提言が続く。懇親会のパネリストテーブルも賑わいが続いた。(モデレーター/82回生 北原譲)





「中高年の健康を考える」

～在京の同期医師が大いに語る～

当番幹事である82回生には医師として活躍する同窓生が多い。今回、首都圏で活躍する医師5名による座談会を企画。医師になった動機やその後のご苦労などざっくばらんにお話しいただいた。整形外科、産婦人科、眼科、緩和ケアなど、それぞれの専門分野から、印象に残るエピソードの紹介もあり、また、50～60歳代の関心事などにも触れていただき興味深い内容。将来、医療を目指す後輩諸君に対してのメッセージもいただいた。読者のみなさまには、東京清陵会の同窓生が医師として、堂々と活躍し、地域医療を支えている姿を誇りに感じてほしい。

司会 まず、皆さんが医師を目指したきっかけについてお聞きしましょう。

佐野 きっかけは、親父が勤務医で他人から感謝されている場面を見たことです。高校生の僕にとって「感謝される」というのは仕事を考える上で医者というのは非常に理解し易かったです。

丸茂 僕も医師は他人から感謝される職業とすることで何となく高校時代から希望していました。

那須野 僕は浪人中にTVを見ていて「他人のためになる仕事はいいよ」という場面があって、「なるほどねー」と思いました。はじめは弁護士になろうと思いましたが、文系科目が弱かったので、医学部を目指しました。

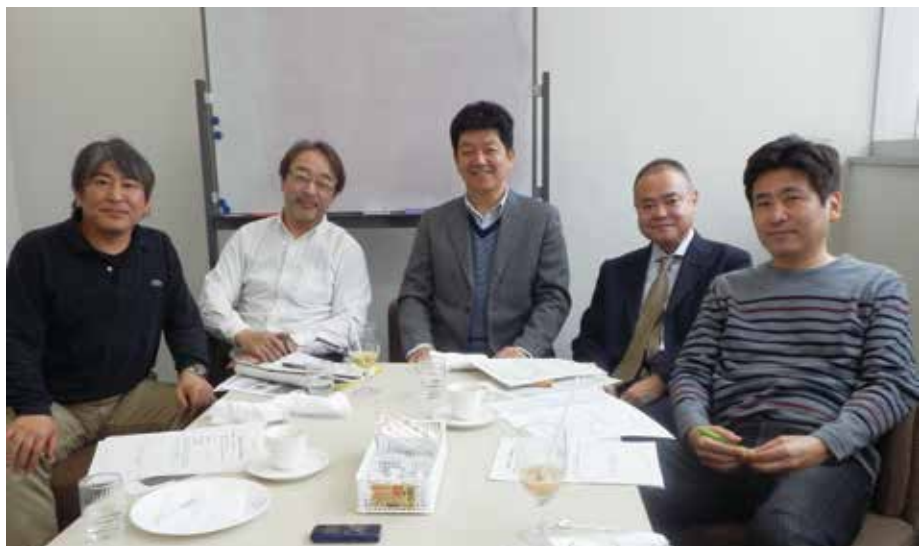
行田 僕はパイロットになりたくて航空大学を目指したのですが、結局浪人しました。浪人時代は本ばかり読んでいて、渡辺淳一にハマり、その中で医師が他人の為になることに共感して医者を目指しました。

村松 高校時代はバスケット部の主将でした。三年でバスケット部を引退してフォークソング部で佐野君とバンドを組んだとき、佐野君が医学部を志望している話を聞き、「佐野が医者を目指すのか。じゃ、俺も」と不純な動機で医学部志望にしました。でも、高校は文系だったので浪人では苦労しましたがね。

司会 次に今の専門に進んだ理由と、医師になり最も印象に残るエピソードをひとつご紹介ください。

丸茂 産婦人科に進みました。大学で6年間いろいろな部署を回りますが、全体に何となく暗くて、唯一産科だけが明るかったのです。

以前勤務していた病院で「4Dエコー」という胎児の立体画像(3D)がリアル



タイムに動く画像(4D)見える機械を導入して、希望のある妊婦さんに対してお腹の中の赤ちゃんの4D映像をDVDに録画するサービスを行っていました。そのとき、生まれて直ぐに心臓の手術が必要な赤ちゃんがいて、結局お母さんは一度も元気な赤ちゃんを抱くことなくその赤ちゃんは亡くなってしまおうのですが、僕の撮影したお腹の中の赤ちゃんの4Dエコーの映像が唯一その子の元気な姿をみることができる思い出になったと、後でお母さんから感謝の手紙を頂いたときは嬉しかったです。

司会 立ち会い出産する人は多い?

丸茂 以前と比べたら増えています。でも何の準備もなく現場にいきなり来て、オギャーと生まれた途端、ドタンと音がしたので何かと思ったらご主人が倒れていたなんていう笑い話があるので、事前準備は必要でしょうね。これも笑い話ですけど、産婦人科の医師が自分の子供の初めての出産でパニックになり、「誰か産婦人科の医師を呼んで下さい。」という話もあります。

那須野 僕の場合、整形外科は悪性腫瘍

等の疾患が少なく、診断もレントゲンで大体わかりそうなので選んだのですが、大学の医局から専門領域に移ったときに結局「骨腫瘍」を担当することになりました。当時から整形の腫瘍と言うのは担当医師が少なく相談できる人もいないので結構大変だったです。「抗がん剤」も大量に使うので、患者の負担は勿論ですが、診ている方も相当ストレスがかかりました。でも腫瘍の患者さんが完治されたときは嬉しかったです。

行田 僕はレントゲンとかCTとかの画像を見て判断するのが苦手で、生理学的に数値で表せるものが性に合うと思って麻酔科に進みました。しばらく大学病院に勤務した後、がん研病院に異動して、そこで麻酔科医としてがんの痛みに関わることになりました。最初自分は「身体の痛みが無くなれば患者さんがハッピーになるだろう」と思って対応したのですが、痛みが取れても患者さんの表情が暗いのです。癌患者にはトータルペインといい、4つの痛み、すなわち身体の痛み、精神的な痛み、社会的な痛み、スピリチュアルな痛みがあり。これを総合的に考え

丸茂医師
(産婦人科医)

なければならない仕事です。

それに気づいてから、「緩和ケア」に興味を持つようになり10年以上携わっています。具体的には末期がんの患者さんの対応で、これまで1,000人以上の方を看取りました。仕事は非常にハードですが、ご家族の方に感謝され、お手紙をいただいたときは、この仕事をして良かったなと思います。皆さんの医療と違って、下り坂になっていく患者さんとうどう向かい合うかという難しい仕事で、その分やりがいがある仕事だと思っています。また40代の若い肺がんの患者さんで、痛みのために横になることもできずに車いすで3ヶ月間過ごしている方が来られて、僕らの処置ですぐに横になることができました。それでお婆ちゃんに涙ながらにお礼を言われたときは、専門が活かして本当に良かったなと思いました。

村松 僕は自転車が好きで中学生1年生のときから「サイクルスポーツ」と言う雑誌を愛読していました。当時からネジを回すのがとても好きで、ネジを回せる医師と言えば整形外科ということで早くから専攻を決めていました。最初のうちは膝の人工関節に関する研究をやっていましたが、20年ほど前から三次救急、交通事故とか重度外傷に携わるようになりました。医師になって感動したことは、骨を10cm近く欠損して延々と入院生活を続けている20代の若い患者を担当したのですが、決してくじけないでリハビリをする姿を見て、逆に彼らから元気を貰うことができたことです。

佐野 僕は友達の医師の就職活動につきあったのですが、眼科の教授に会って話を聞く中で僕自身も近視で苦勞していたことを思い出し眼科に進みました。自分が苦しんだ病気の専門に進むというのは

良くある話ですが、後輩にはあまりお奨めしません。患者の気持ちがわかることよりも時にクールな対応の方が医師として必要だからです。眼科医になって良かったことですが、以前、白血病の子供で骨髄移植の拒絶反応で角膜がやられて目が見えなくなった患者を担当しました。あとどれくらい生きられるかわからないけれど、お母さんの顔が見たいという本人の強い希望で手術しました。最後は亡くなってしまうのですが、お母さんから息子は「最後に私の顔を見ることができました」という手紙をいただいた時は嬉しかったです。

司会 それでは、50代・60代の世代に対して、健康で暮らすために日常生活で気をつけることなどメッセージがありましたらお願いします。

那須野 四十肩・五十肩が有名ですが、やはり肩の故障を訴える方が多いです。予防にはストレッチ運動ですね。あとインナーマッスルを鍛える。鉄アレイのような重い物でトレーニングするのではなく、ペットボトルのようなもので1日10分もやればOKです。

司会 あと、転ぶ人がいますよね。何か予防法はありますか。

那須野 今、整形外科学会でも話題になっているのですが、片足立ちの運動で「ダイナミックフラミンゴ」というのを推奨しています。股関節周りの筋肉を鍛えて歩行を安定させる運動です。

行田 僕の分野で今話題になっているのは2025年問題です。2025年という僕たちが65歳になっているのだけれど、少子高齢化で2015年に比べて日本人の死亡者が約40万人増えることが予想されています。その時に何が問題かということ、「死ぬ場所が無い」ということです。それで国は今「在宅で看取る」ことを推奨しています。在宅なら医療費もそれほどかからないし。でも医療現場の方はそこまで追いついていないこともあって、今後の課題だと言われています。

司会 長生きは幸福なはずなのに、精神的にも経済的にも負担になってしまうような面があるということですかね。

行田 長野県はその点、比較的うまくいっているようですね。「ぴんぴんころり運動」

行田医師
(麻酔科医)

とか。長野県は自宅で亡くなる比率がかなり高く、しかも平均寿命が長い。そういう面ではかなり先進的と言えます。

村松 僕が言いたいのは、内科の先生方がよく「歩け歩け」と仰るのだけれど、ウォーキングは万能ではないです。歩いていて膝や腰を痛める人が整形外科に山ほど来ます。歩くだけで体重の2~3倍の負荷が腰や膝にかかっているのだから、かえって痛める人もいます。だから歩くのを少し減らしても良いから、先ほど話が出た「インナーマッスル」を鍛えた方が良い。どんなに高齢でも、例えば90代の人にも僕らはトレーニングを勧めます。

佐野 白内障のように手術して直る病気は良いのですが、緑内障のように神経がやられてしまう病気は、早期発見が重要です。視覚が保たれているかどうかでボケ具合に凄く差が出るらしい。自覚症状だけではなかなかわかりづらいので、病院で診断してもらうしか手はありません。

司会 50~60代の目に良い物ってありますか？

佐野 よくブルーベリーが目が良いという話がありますが、そればかり食べていた人が高血糖になったという笑い話があります。ケースバイケースなので専門医に聞くことが大事ですね。

丸茂 僕からは更年期対策についてお話をしましょう。更年期対策についてホルモン補充療法とかもありますが、基本はやはり運動して身体を健康にするしかありません。骨折して寝込むとボケてしまう話は良く聞きますが、とにかく身体を動かすことがボケ防止にもなりますし、骨量を増加して骨粗しょう症の予防にもなり身体も健康でいられます。

司会 それでは次のテーマに移ります。



佐野医師
(眼科)

これからの医療と言うことで、5年後10年後に医療現場ではこんな変化が起こるとか、それに対してこんな事を考えて行かなければならないと言う話をお願いします。

行田 10年後は2025年問題がありますので、それに対して備えて行かなければならないでしょう。実は僕は去年食道がんを患って、12時間に及ぶ手術を受けたのですが、今後も日本では2人に1人ががんになると言われています。TVのCMのとおり、がん保険に入ることは自分の体験からも本当に大事だと思います。自分が患者になってみると、経済的な面でも本当に大変です。僕は入局してすぐ上の先生に言われてがん保険に加入していたので本当に助かりました。是非加入することをお奨めします。

村松 整形外科の領域では、おそらく軟骨が再生されるようになります。骨はもう再生可能なので今後は軟骨再生が実用化される。そうすると僕が取り組んできた人工関節は不要になります。

佐野 目の分野では人工網膜だとかIPS細胞を使った再生医療が進んで、これまでダメだとあきらめていた患者が救えるかも知れません。また今後は予防医学、すなわちなるべく医療にお金をかけない方向に医学が進んでいくのではないで

しょうか。また延命治療の分野で話題になっているように、患者の意志がより尊重される方向に向かうのではないかと思います。

丸茂 産婦人科の分野では、赤ちゃんの細胞を羊水から採って出生前にダウン症などを診断する「クワトロ検査」という方法があるのですが、お腹の上から針を刺すので1/300の確率で流産になるリスクがありました。そこで最近、母体血を採って分析することで赤ちゃんの染色体異常がわかるという技術が開発されました。この方法だと羊水採取のリスクが無くなりの確率で判定ができますので、今は大学病院等での検査に限定されていますが、一般化していくのではないかと思います。

那須野 さっき軟骨の再生の話が出ましたが、希望的な観測として、脊柱管狭窄症の治療法が確立されると思います。

司会 最後のテーマになりますが、後輩の若い医師やこれから医師を目指す清陵生に何か一言いただけますか。

村松 都会の病院でも田舎の病院でもそれぞれにキャリアアップの為になる経験ができますので、あまり選り好みはせず経験を積んだら良いと思います。

佐野 医学部は門が狭く、時に入試で何浪もして入学できない人もいます。医学以外にも他人の役に立てることは数多くあるので、自分を活かせる道については近視眼的にならず、広い視野を持つことも大切だと思います。

丸茂 僕は逆にやりたいことに挑戦して欲しいなあ。全力で挑戦してダメだったらあきらめがつきます。やらなかった後悔だけはしたくないと思います。

那須野 サラリーマンは60歳位が定年だけれど、医師は70歳くらいでしょうか。



村松医師
(整形外科)

その差を考えると、何浪かしても取り返せません。今日のメンバーで現役入学は誰もいないし、浪人したことを損だとはあまり考えていません。医学部の場合浪人が多く、それが1年なのか数年なのかという違いでしょう。

行田 医学部に限ったことではないけれど、高校生のときに何か興味を持つこと、興味を持ったらか何か目的意識につなげることが大事です。「自ら反みて縮くんば…」は理想なのですが、あまり我を張らずバランスをとって臨機応変に対応していかないと人生結構苦労します。この辺は諏訪人の得意としない分野かなと思います。医師の数はまだまだ不足しているので、是非挑戦して下さい。

司会 最後に行田君が上手くまとめていただき有り難うございました。それではこれで座談会を終わりたいと思います。



那須野医師
(整形外科)

(取材・構成/82回生 高橋茂樹、今井俊雄)

歯科一般・小児歯科・予防歯科

岡本歯科医院

東京都大田区鵜の木2-15-19

☎ 0066-9718-1843
03-3759-4184

東急多摩川線鵜の木駅1分

岡本 徹(83回生)



あすみが丘

佐野眼科

Asumigaoka Sano Eye Clinic

千葉市緑区あすみが丘 1-1-8 TEL 043-295-3900

佐野研二(82回生)

kenjisano@aol.com

活性化ワーキンググループ四年目活動報告

ミドル交流会、新歓も定着、 プレ就活イベントも準備中

活性化ワーキンググループのイベントも四年目。3月のミドル交流会は二回目、先輩と幹事学年講師によるリレー講演。5月の新卒歓迎・学生交流会は三回目、新卒17名参加は過去最大。また11月には、昨年まで総会懇親会の中で行ってきた「学生交流タイム」を「働くことを考える学生の会」として、単独イベント化。女子部会も準備中。HPもご覧ください。

平成26年度ミドル交流会

3月1日のミドル交流会、パネリストの南保勝美さんから「会社法の仕組みについて簡単に報告しました。ミドル交流会が益々充実したものとなることを祈念しています」、大槻利樹さんから「齢50を過ぎて、母校の懐かしみが増していく今日、とても良い機会となりました」、小松裕さんから「清陵を卒業してから35年、今でも私の中にあるのは理想を追い求める正義感、清陵魂です」とコメント頂いています。参加者からも「素晴らしい会で、息子に聴かせたいくらいの内容でした」「諸先輩や同期、後輩と交流の時間が持て、エネルギーの充填ができました」「リレー講演はそれぞれのお人柄やメッセージが伝わる構成で司会進行も参考になりました」等、大変好評でした。

(取材・構成/83回生 岡本徹)



新卒歓迎・学生交流会

新卒生は不安げな表情で順々に受付を行い始めたが知り合いを見つけ、挨拶交わして一安心。「同窓会」。同じ高校の先輩との交流する会という意識でとりあえず顔を出してはみたものの年齢的に父母から祖父母に相当する先輩にまで囲まれ何が起こるのかと硬い表情。まず、八巻教授からの講演で今後の生活への助言を、そのあと、和食弁当をいただき満足そう。そして、先輩との交流会だがさすがに、最初は初対面では何を話題に話せばよくわからず重苦しかったが徐々に立ち話の数も増えた。今回の感想にも多かったが、清陵生という共通点から「同窓会」では縦横を通じて、多様な発見があるのかという期待感をもってもらえたか。取り敢えず、雰囲気はわかってもらえたようだ。

(取材・構成/84回生 飯田秀機)



新企画「働くことを考える会」 ～プレ就活イベント～

～真にやりがいのある
仕事を見つけよう～

本年から新たに始まるこのイベントを通じて、「就職」が自分の生活をより豊かにさせ生きがいを得る大事なチャンスであることを体感して頂きます。

具体的には人材採用から教育までを担当している多種多様な業種の採用担当者の本音を聞くとともに、個別面談ができ

る相談テーブルも準備します。

また就活を終えたばかりの先輩達から、就活時の失敗談や成功体験、後輩に贈りたいアドバイスなどを披露して頂きます。

開催日：11/29 日曜 13時30～、
場所：アルカディア市ヶ谷

(開催幹事：86回生 細田明)

2016年 イベント予告

開催日	内容	会場	開催幹事
3月6日(日)	ミドル交流会	アルカディア市ヶ谷	84、93、103回生
5月29日(日)	新卒歓迎・学生交流会	剛堂会館	85、86、113、118回生
6月25日(土)	本部総会	紅や	83回生
10月2日(日)	東京総会	アルカディア市ヶ谷	83回生、サブ93、103、113回生
11月29日(日)	働くことを考える学生の会	剛堂会館	87、88、94、117回生

(インモールドラベル印刷・UVホログラム印刷・インラインフォイル印刷)
より美しく、より高精細に、より高品質に。

時代の一步先行く、最先端の印刷技術。

中央印刷株式会社
〒394-0048 長野県岡谷市川岸上1丁目1-20
TEL(0266)22-5551ℙ FAX(0266)24-0304

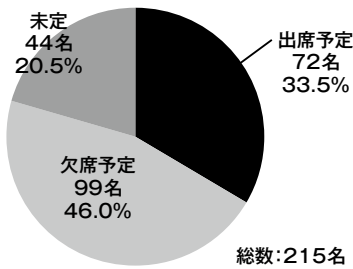
株式会社 中央企画
〒394-0048 長野県岡谷市川岸上1丁目1-20
TEL(0266)21-7620ℙ FAX(0266)21-5315

号外アンケート調査結果

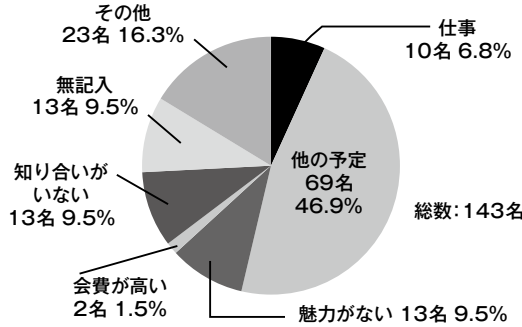
周年記念総会企画、イベントへの期待高まる

総会に先駆け4月に号外を発行した際、同窓生のニーズを知り企画に反映するためアンケートを同封しました。下記の通り、総会・懇親会への期待は「同窓生に会い懇親を深めること」と同時にパネルディスカッションや今年度初めて行う懇親会自由交流タイムへの参加など清陵らしく自己研鑽を怠らない様子が見て取れます。

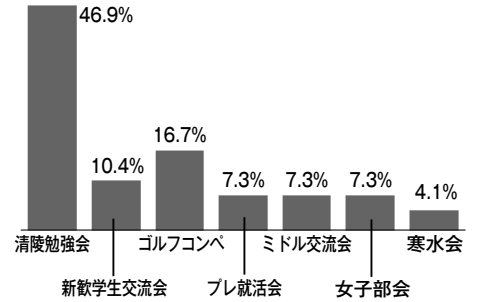
■1-1:今年の総会・懇親会は出席予定ですか？



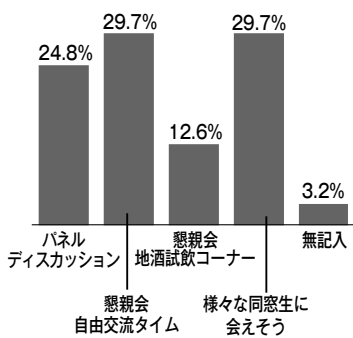
■1-2:「欠席」「未定」の場合、その理由は何ですか？



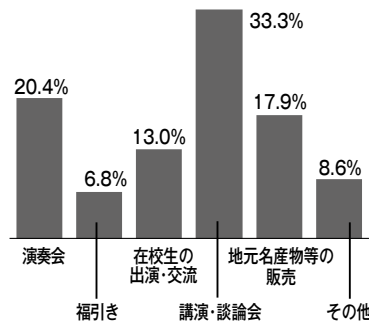
■3-1:既存のイベント・集まりの参加の状況(※複数回答可)



■2-1:今年の「日曜」総会・懇親会に何を期待しますか？(※複数回答可)



■2-2:上記以外に総会・懇親会で希望することは？(※複数回答可)



■3-2:「あれば参加したい集まり」は何かありますか？

- ・絵画に関する集まり
- ・芸術家の展覧会(絵画、彫刻、陶芸、写真)
- ・フォトクラブ
- ・カルチャーセンター的集まり
- ・国会議員を育成する会
- ・カラオケ大会
- ・老年向健康診断

■4:同窓会への意見・希望

- ・土曜日、昼開催を希望
 - ・意欲的活動に感謝
 - ・諏訪地区、産業振興を推進するプロジェクトを考える会の発足
- (構成/竹内雅彦)

同期会活動紹介「古稀を過ぎても60人が大集結しました」62回生

諏訪清陵高校62回生 東京同級会

62回生の東京同級会が5年ぶりに26年2月22日、東京千代田区の「スクワール麹町」で開かれ、古希を過ぎた同級生(同年生)の女性5人ら60人が集まり、久しぶりの顔合わせで、高校時代のエピソード、第二の人生に談議がはずんだ。特別

講演では62回生で元日本製薬工業協会理事長(厚生省)の市川和孝氏が高齢化社会と医療保険制度の下での「日本の医薬品産業界」を語った。

この日は諏訪、甲府からも15人が駆けつけて会を盛り上げて、次回は来年、諏訪大社の御住祭の季節に開こうという声があがっていた。恒例となった福引の「長生き賞・ふるさと賞」では諏訪名産



の竹屋の趣味噌、大社煎餅、ワカサギ佃煮などが当たりお土産となった。

(写真/中村悟郎、取材・構成/藤森汎)

くらしの礎を創る。

JFE エンジニアリング 株式会社
 JFE アクアソリューション本部
 東京本社
 〒100-0005 東京都千代田区丸の内一丁目8番1号
 TEL: 03-6212-0040 アクアプラント事業部 営業部
 TEL: 03-6212-0038 アクアバイブレーション事業部 営業部
 URL: http://www.jfe-eng.co.jp

税理士法人フェアコンサルティング
 FAIR CONSULTING TAX CORPORATION

細田 明 (86 回生)
 税理士/代表社員

104-0045 東京都中央区築地四丁目 1-12 ビュロー銀座
 ☎ 03-3541-6863

同期会活動紹介 「まさに同期の談論会、そんな印象の第43回懇親会に伺いました」59清陵会(東京)

43回もの長きに渡り続けている同期会がある。59回生が集う「59清陵会」である。会の発足の経緯や長く続けている秘訣を白倉会長に伺った。会長はじめ大先輩が揃い緊張する我々に酒を勧めて下さり、楽しいお話と時間を共有することができた。



懇親会にて(最後部左が白倉会長)

暖かい日が続き、桜が一気に咲いた3月末の午後、第43回59清陵会(東京)の集まりにお邪魔させていただきました。

この日は、桜鑑賞ということで、東京都江東区の富岡八幡宮に集合。ちょうど、縁日ということでたいへんな人ごみのなか、御本殿に参拝したのち、大横川沿いの桜並木を散策。八分咲きの桜を眺めつつ、懇親会場である「海の幸」へ向かう。

「海の幸」(東京都江東区富岡1-22-20 ☎03-3643-0965)は、同期である59回生の金子政喜さんがオーナーで、食材は築地直送の居酒屋。59清陵会(東京)は、毎年こちらで、懇親会を行うとのこと。

第43回目となった本日の懇親会には、首都圏を中心に、諏訪、関西、北海道から30名ほどが集まった。冒頭、この1年間で亡くなられた方へ黙とう。その後、59清陵会(東京)の会長である白倉徹哉さんのあいさつ、そして新鮮な魚介類と諏訪の地酒による宴会へ。会報の取材



「海の幸」オーナーの金子さん(左2番目)と、スタッフの皆さん

で突然参加した我々にも、大先輩の方々から、酒や料理をお勧めいただき、久しぶりに諏訪の酒をいただく。

白倉会長に、59清陵会(東京)の発足の経緯や活動について、お話を伺った。「そもそもは、昭和37年ごろ、就職してから、地方に赴任する同期生の壮行会を小平恒彦先生が担任だった2部の数名で行ったのが始まり。これがおもしろくて、またやろうということになった。それが口コミで広がって、2部だけじゃつまらんということで、首都圏近郊の同期に呼びかけるようになった。昭和57年ごろからは、毎年定例で集まっている。」と白倉会長。定例の懇親会以外は、最近はあまりないが、かつては、ゴルフ旅行も行ってた。諏訪の同期生は、現在でも、毎月ゴルフを行っており、5月には100回記念大会を行うとのこと。

59清陵会(東京)の集まりが、43回も続いてきた理由について、白倉会長に伺った。「単なる飲み会ではなかったから。清陵生は理屈っぽいから、はじめのころは、今年のテーマは、これこれと決めて各人好きなようにしゃべっていた。記憶に残っているのは『日本は三流国ぐらいの扱いが適当でありやなしや』というもの。みんなしゃべりたがりが多いから、こんなテーマを決めてまわして、いつも盛り上がっていた。今になって考えると、

みんなが話したことをテープに起こして記録にしておいたらおもしろいものがあったかもしれないけど。だんだん、子供が生まれたとか、子供の結婚、自分の病气、そして、死に対する話に変わってきたが。まあ、自己紹介、近況報告、自分が今悩んでいることなんかは、いつでも、みんな好きに話している。酒を飲ませりゃうるさいのが一杯いるから、話し手がなくて、座が白けることはないね」。白倉会長のお話が續く間も、周囲は大いに盛り上がり、あちらこちらで、活発に話がされている。そうこうするうちに、「それでは、恒例の近況報告を行います」との掛け声があり、幹事の指名により、ひとりひとり話が始まった。近況報告というより、演説のごとく、5分以上も話かとまらない方も。ときどきつつこみもありながら、先ほどまでの喧騒がうそのように、みんながじっくり話を聞いている。



富岡八幡宮にて

しゃべりたがりの集まりとの話もだが、相手の話もしっかり聞いている、なんともいい雰囲気なか、自己紹介は続いた。

今回、会報の取材について、快くお受けいただき、大先輩ということで、若干緊張していた我々に対して、懇親会でも、まるで慈父がごとくお話いただいた白倉会長ほか皆様、ありがとうございます。同期同士で、幾つになっても、議論しながら、仲良く、歳を重ねていっしょる皆様にお会いでき、我々の期もぜひ見習っていきたく感じた1日でした。

(取材・構成/82回生 小野隆吾)

大学清陵会「仰ぐは同じき理想の光」早稲田大学学生諏訪会

職場清陵会「四行統合で同窓生増。来たれ清陵生」三菱東京UFJ銀行

清陵OBが三人集まれば、いつでもどこでも清陵会になる。同窓生に有為な影響を与えたであろう清陵会を紹介してみたい。大学清陵出身会は、何と言っても、諏中出身一高会に端を発する。諏中の校風に大きな影響を与えたとされる。中島喜久平、藤原咲平、吉川晴十らが名を連ねる。明治39年のことだ。初回は早稲田大学(信州大学を除けば)、清陵生が一番多く進学した大学と言えるだろう。職場では東京三菱銀行、こちらも三菱、東京、三和、東海の合併で現役行員十数人、OB三十人を誇り、東京清陵会幹事もに十人近い、地元企業を除けば最大級。

早稲田大学学生諏訪会

■清陵を卒業し上京、中央線沿線にある長野県の学生寮に入寮した。残念ながら大学生でなく予備校生だ。寮生100人、予備校生は10人程。清陵OBは10数人、確か3人が予備校生だった。先輩には歓迎会をしてもらったり、食事に誘ってもらった。秋になると寮の清陵先輩が神宮に早慶戦を観戦に行くという。お前も来いと誘われたのが、学生諏訪会だった。

何でも早稲田大学には清陵OB会があるらしい。スタンドでは他のサークルは女子大生を迎え華やいでいた。予備校生の私には眩しい光景で、来年こそ早稲田へと意を強くした。二次会は中央線沿線の居酒屋だった。酔い潰れた先輩をおぶって帰寮。その時、当時の幹事長から、「三年後の幹事長はお前だ」と予備校生の私は任命された。想えば三十数年前の話だ。

(8X回生 匿名希望)

■当時は、小松政雄教授(38回生)が政経学部長、後に早実校長を務めた山岡喜久男教育学部教授(34回生)、武川忠一社会科学部教授(38回生)、伊藤礼吉理工学部教授(46回生)、会津洋語学研究所教授(49回生)、伊藤順蔵体育局教授(50回生)、牛山積法学部教授(52回生)とそうそうたる教授陣だ。

(82回生 北原謙)

■そば屋の思い出

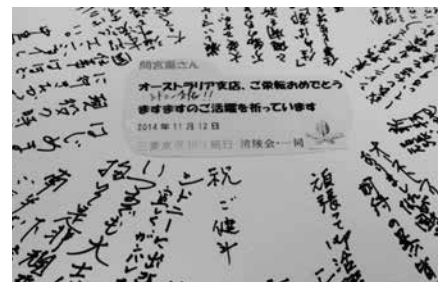
諏訪地方出身の早大生が組織していた「学生諏訪会」では、先輩から受け継いだ寸胴鍋・杓子・コンロ・ネギ切り器・防水シート等の道具を大学近隣の長岡屋という蕎麦屋に預かっていただき、毎秋の早稲田祭には屋台を組んで「信州そば」を売った。蕎麦は都内の製麺所に注文したが、売るのは我々だから「信州そば」で構わないとそぶいていた。時は1980年代前半、大学が「レジャーランド」に墮したと言われた時代。お好み焼き・焼きそば・クレープを売って数十万を稼ぐと噂された他団体に引き換え、「信州そば」は赤字続き。しかし85回生が仕切った年は、売り上げ金だけでスタッフ全員参加の打ち上げを盛大に開くことができた。

(84回生 赤羽俊昭)

三菱東京UFJ銀行清陵会

我々三菱東京UFJ銀行では年に一度、OB・現役が一同に会して懇親を深める「清陵会」を開催しています。昨年は11月12日に日比谷帝国劇場近くの居酒屋に57回生～95回生までの20名が集まり、昨今の経済情勢から附属中学校の話題まで約2時間近くお互いの近況報告も交え楽しい時間を過ごしました。

今でこそクイズになりそうな銀行統合の歴史ですが、三菱・東京・三和・東海



が一緒になって三菱東京UFJ銀行となりました。現在の清陵会も元々は三菱銀行時代からの活動で、57回生の今井さんが声掛けて職場清陵会がスタートし、その後新入行員が入る度、そして銀行の統合で現在の25名(うち2名が女性)までメンバーが増えました。

メンバー最年少は108回生、女性の問宮さんですが、丁度同じタイミングでオーストラリア・シドニー支店への転勤が決まり懇親会に参加できなくなったため、懇親会参加メンバー全員で熱い激励メッセージを寄せ書きしました。まさに“51歳の年齢差”をものともしないパワフルな職場清陵会を展開しています。

次回懇親会も11月頃の開催を予定していますが、金融業務はグローバル化がますます進み、若くして海外勤務することが普通の時代だからこそ、「自反而縮雖千萬人吾往矣」の志を持った清陵出身者の新人メンバーが増えることを願ってやまない今日この頃です。

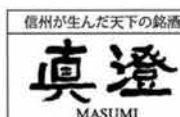
(取材・構成/84回生 矢崎治孝)

●上質な真澄を最適な状態でお客様へ ●真澄でお客様の食卓を和やかに

●人と街に優しい酒蔵に ●日本酒を世界酒へ

1662(寛文2)年の創業から350年あまり。真澄は昨年より一年分背筋を伸ばして四つの夢の実現に励みます。皆様の益々のご健勝をお祈りいたしますと共に、真澄蔵元に倍旧のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

www.masumi.co.jp
www.facebook.com/sakemasumi



信州が生んだ天下の銘酒
七号酵母発祥の酒蔵
宮坂醸造株式会社
〒392-8686 長野県諏訪市元町1-16
TEL.0266-52-6161 FAX.0266-53-4477

学年会通信

「集まれ、我等が同期」同期会が同窓会の原点、毎年継続開催を!

同窓会のベースとなるのは、各学年単位のつながりです。今後の同窓会活動を一層発展させるには、学年単位の同窓会のつながりを強化していくことが重要と考えています。この学年会通信により、未参加者に自己の学年会の動きを伝えるとともに、他学年の活動を学んだり、他学年と繋がるきっかけとなることを目指します。

我々76回生は清陵在学当時修学旅行がなく、6年前の学年幹事を務め終えた翌年に「幻の修学旅行」を京都にて実施しました。その後還暦を迎え、是非もう一度開催しようという声が高まり、本年5月に第二弾として、北陸新幹線延伸開業で湧く金沢旅行を決定しました。諏訪からはサロンバスで、東京組は途中の駅から、関西組とも金沢で合流し、初夏の金沢を満喫してきました。また、我々は普段から東京では毎月第三金曜、諏訪でも毎年8月に仙岳で学年会を開催し交流を続けています。懐かしい顔に会いたい同窓生は是非ご連絡を! (76回生 HP <http://www2.plala.or.jp/yellowcard/index.html>) (76回生 関屋孝行)

昨年は81回生が総会担当学年でしたが、各位のご協力で担当幹事学年の役割を無事に終えることが出来ました。心から感謝いたします。卒業後数十年ぶりに顔を合わせた旧友と総会に向けて準備を進めながらも、昔話に花を咲かせみんなの近況を知ることができ、非常に有意義な幹事学年となりました。総会後は81回生で二次会の懇親会を行い、また今後も定期的に飲み明かそう、語り明かそうという事になり、更なる親睦を深めています。(81回生 安川昌昭)

我々82回生は一昨年、諏訪湖花火大会が途中で中止した翌日に仙岳に集結し、幹事学年準備をスタートしました。今年は120周年、世代を超えたパネリストによるパネル、諏訪響の演奏、地酒コーナー、手ぬぐいはっぴなど、本部、東京連携して記憶に残る企画を盛りこみました。6月の本部総会も盛り上がりでしたが、10月の東京総会に加えて盛り上げる工夫をしています。初参加の同期大歓迎、私も同期を引き連れて茅野から参上します。みんな〜、10月4日(日)、市ヶ谷に集まろうや! (82回生 本部学年幹事 丸茂洋一)

83回生は、同期会の名前を祥雲会と称し、卒業以来これまで数年おきに全体の同期会を定期的に開催しています。(直近では昨年の8月14日:於浜の湯) 次回は同窓会の当番幹事学年となる来年の(諏訪での)総会の後を予定しています。それとは別に東京近郊在住のメンバー(10数名)で夏と冬になるべく集まるようにしていますし、祥雲会諏訪望年会と称し、一部有志で12月30日に諏訪でも集まるようにしています。またSNSの利用をということで、FBに「東京清陵会83回生の窓(東京在住でなくても)」というグループを作って情報交換を行っています。(今のところ23名ですが) 来年の当番幹事学年として、もっとも仲間を増やしていきたいと思っていますので、どうぞ宜しくお願いします。(83回生 岡本徹 連絡先090-2453-1063 tooruken@galaxy.ocn.ne.jp)

5月に行われた『第3回新卒歓迎・学生交流会』にて、幹事役を務めおせた84回生ですが、清陵を卒業してから、まだ1度も学年全体としての集まりを持ったことのない我が同期の結束は、残念ながらまだまだといった状況です。4月から母校教頭に同期の北澤潔君が着任したことですし、10月末の清陵勉強会では、小口高君が講師となる予定です。来年3月には、84回生が主催する『第3回ミドル交流会』も行われます。個人的に同期生と交流のある皆さんは多いと思いますが、さらに交流的輪を広げることのできる東京清陵会主催の諸行事にもぜひ足を運んでください。(84回生 赤羽俊昭)

2011年頃より数回にわたり一部メンバーによるミニ同窓会を重ねて、2013年6月22日には諏訪の地で『卒業30周年大同窓会』が開催されました。当日は恩師の先生方をはじめ同窓生など総勢127名の出席があり、喜びのうちに大成功を収めることができました。また、同窓生から構成されるフェイスブックでは現在72名のメンバーがいて、情報交換や気軽な集まりの声かけの場となっております。2014年12月には女子同窓会も開催され、在京のみならず遠方から18名のメンバーが参加しました。これからは86回生のさらなる繋がり、絆が深まることを楽しみにしています。(86回生 細田明、加藤正治、武田正利、波賀かおり、連絡先:mg1haga@hotmail.com)

このところ毎年、全体の同期会を開催しています。今年は6月13日(土)。この文章が紙面に出るころには、集まった同期で日付が変わるまで飲んで歌って、熱い時間を過ごしていることでしょう。10月4日の東京清陵会総会にも、大勢参加してくれることを期待しています。連絡は、学年幹事の金子哲哉(kaneko@b07.itscom.net)までお願いします(FACEBOOKも可) (89回生 金子哲哉)

今年度サブ幹事の92回生(九二会)です。東京清陵会の同期生の皆さん、私達は10年後の創立130周年同窓会の当番幹事となりますので、各地の同期生と協力し、少しずつ輪を広げていきたいと思っております。今年は120周年同窓会が、6/27(土)に諏訪で開催され、同期生約10名が地酒試飲コーナーの補助及び法被お披露目をしてくれました。10/4(日)の東京清陵会の総会も、ご参加ご協力を宜しくお願いします。(92回生 笠原健一)

93回生の柳澤寿男氏指揮による「世界平和コンサートへの道」プロジェクトでは、同期や先輩、後輩の皆さんにご協力いただきました。ここで紙面をお借りして御礼申し上げます。その様子をまとめた書籍『バルカンから響け 歓喜の歌』が6月に発行されます。ぜひ手に取ってご覧いただければと思います。柳澤寿男氏は、現在、バルカン室内管弦楽団音楽監督ならびにソソフィルハーモニー交響楽団首席指揮者として、紛争の傷跡が残るソソボと日本(東京)を行き来しながら、平和を願って音楽活動を続けています。(93回生 吉川豪 久燦会)

我々99回生は、FBにグループを作り、ネットワークが少しずつ広がってます。同窓会などで、高校時代に一度も話したこと無い仲間と会う機会があるんですが、会った瞬間にすぐに仲良くなれるんです。これも清陵という強い共通点があるからでしょうか? 来年迎える卒業20周年の同窓会に向けて、お盆の時期に諏訪にてプレ同窓会(8月14日予定)を企画しています。会うのは卒業以来という仲間もたくさんいるでしょうね、皆さんのご参加お待ちしております。(99回生学年幹事 荒木健太郎 連絡先090-2439-3521 reincarnation-kentaro@docomo.ne.jp FaceBookでもLINE(ID kenchan19770824)でも連絡ください。)

芙蓉の花の咲く季節となりましたが、同窓生の皆様におかれましては如何お過ごしでしょうか。我々115回生も、清陵を卒業して早4年、就活生として各々の道を切り開こうと、額に汗を浮かべながら街を飛び回る日々を過ごしております。さて、来る10月27日のイベントでは我々115回生もパネラーとして参加させて頂くことになりました。116回生を始めとする、大学生のお力に少しでも成ればと思っておりますので、是非足を運んで頂ければ幸いです。(115回生 平林怜)

今春、諏訪清陵高校を卒業した私たち118回生は、在学中に開校120年をはじめ地方会の廃止や付属中の開校、また、湖周マラソン開催が100回を数えるなど、清陵にとつての大きな節目の時期を過ごしました。5月の新歓は17名出席し、先輩方とお話できる大変貴重な機会となりました。学年幹事は帯川、塚原、茅野、五味の四人です。10月4日には東京総会があり、また集まりましょう。諸連絡は(代表:帯川) ef-s55-250mmf4-5.6is@docomo.ne.jp お願いします。(118回生 帯川恵輔)

清陵勉強会150回記念

清陵の知力、向学心、探究心、
いつまでも現役です

～清陵勉強会150回記念講演会2月28日に開催～

演題：「『東に高き』の作詞者寒水・伊藤長七の生涯と仕事」 講師：春山明哲氏・小林盛男氏（ともに68回生）

1990年2月に始まった当勉強会は、25年の春秋を経て、目出度く150回を迎えた。創設者は宮坂広作氏（50回生）、中村平治氏（同）及び岩垂弘氏（57回生）である。講師は、ほぼOBが務め、謝礼、交通費はなし、懇親会に招待するだけである。これまでの講師は136人。事務局を務めたのは6名のOBである。現在は、東京清陵会の事業の一つとして開催中、140名余が会員登録済みである。

今年は母校創立120年であり、講師のお二人に第一校歌の作詞者寒水伊藤長七の人となりをお話いただいた。この日は、矢崎和広同窓会長他70名の会員が



参加した。

両氏は、長七の研究に長年携わり、「現代教育観」（明治45年刊）、「小諸を去る辞」（明治34年）のほか、伊藤家の写真、文献、諸資料を紐解き、長七と関わりのあった、藤村、赤彦、茂雄、水穂等との交友関係、高師3年次の校歌作詞の頃、旧制府立5中初代校長までの業績を紹介された。

なお、講演会・懇親会の様子は、宮坂健二氏（58回生）、後調正則氏（76回生）



作成のDVD-R（千円頒布）をお求め下さい。申し込みは清陵勉強会のブログ

（<http://seiryobenkyokai.biglobe.jp/>）へ

●事務局 米山（63回生）



MARUMO
LADIES' CLINIC

丸茂レディースクリニック

（院長 丸茂元三 82回生）

〒106-6004 東京都港区六本木 1-6-1

泉ガーデンタワー 4F

TEL 03-5575-5778

FAX 03-5575-5779



なすの整形外科クリニック

院長／医学博士

那須野 秀二

（82回生）

〒252-0303 神奈川県 相模原市
南区 相模大野 ロビーファイブD101
Tel: 042-705-3417



Packing Picking Assort Cargo

私たちは、

お客様の企業活動に直結した物流サービス全般の業務委託先としてお客様に安心してご利用いただけるサービスを提供し、お客様と共に成長していく物流パートナー企業として社会に貢献してまいります。

株式会社 小野包装 は、東京・埼玉・茨城を拠点とする総合物流サービス企業です。

私たちは仕事のクオリティ向上に日々努めながら、お客様の新しいニーズにもお応えいたします。

サービスの向上、物流上のご提案及び資源の効率化を行い、お客様と弊社のWIN-WINの関係を構築してまいります。

株式会社 小野包装

代表取締役会長 小野 寿勇

【本社】〒120-0005 東京都足立区綾瀬2-31-7

Tel: 03-3604-0550 Fax: 03-3690-0550

【三郷流通センター】〒341-0025 埼玉県三郷市茂田井220

Tel: 048-949-2115 Fax: 048-949-2116

【守谷工場】〒303-0044 茨城県常総市官生町261-8(守谷工業団地内)

Tel: 0297-20-3070 Fax: 0297-20-3071

2014年度 東京清陵会定期総会報告

第48回東京清陵会定期総会・懇親会は、2014年10月17日(金)例年通りアルカディア市ヶ谷で開催された。今年の当番幹事は81回生が担当した。

定期総会は、79名の出席のもと午後5時より「飛鳥の間」で行われた。藤森会長を議長に選出し、2013年度会務報告、会計報告、監査報告、2014年度事業計画、予算案ならびに役員改選等の議案を審議し、全てを承認して終了した。

役員改選では、藤森宏一(63回)及び長田宏子(62回)、金子充宏(65回)、平林千義(67回)の3名の副会長が再選され、新たに守矢早苗さん(67回)が副会長に選任された。常任幹事及び幹事も再任・新任者が選出された。(詳細は、別紙役員一覧をご覧ください)

懇親会は、午後6時より「富士の間」で行われた。参加者は、久々に210名を超えた前年を下回ったものの当番幹事や学年幹事のみなさんの尽力により、諏訪からの来賓2名を含めて192名が出席、うち現役学生は25名であった。

小口久雄さんと矢崎理恵さんの81回生お二方の軽妙な司会により始まった懇親会は、物故者に対する黙とう、田中達也さん(81回)の力強い開会の辞に続いて、藤森宏一(63回)が挨拶の中で、ワーキンググループによる交流行事に若年層の参加者が増えてきたことなど例をあげ、今後も東京清陵会のより活性化に注力したいと話された。ご来賓の矢崎和広(68回)同窓会長からは母校の創立120周年記念事業について、石城正志(78回)清陵高校校長は平成26年4月開校

した附属中学校について、それぞれ挨拶のなかで話され会場の関心を引き付けた。

鏡開きは、50回生野口健児さんと最年少出席者115回生平林怜さんを含む5人により行われ、上原秀秋さん(49回)による乾杯の発声で和やかに懇親の会は始まった。今年も例年通りの学年別着席のテーブルで、時にはテーブルの間を歩きかいたながら、久方ぶりの邂逅に挨拶など談笑の輪は広がった。恒例となった現役大学生に人気のワーキンググループによる学生と社会人との「交流タイム」には、業種別分かれた4つのテーブルに40名余が参加して行われた。先輩社会人から普段聞くことのできない業界の話や就職などの話題を興味深く聞いたり質問していた大学生たちは、東京清陵会の存在・魅力をあらためて実感していた。

恒例の日本一長いと言われる校歌を当番幹事安川昌昭さんのリードで斉唱。太鼓のリズムに合わせて演壇上の大勢の81回生と会場が一体となり、高校の青春時代を思い声高らかに謳いあげた。

懇親会の締めは、翌年度の当番幹事82回生の北原譲さんが、次年度の総会は久し振りに休日の昼間開催すること、盛り沢山のメニューを準備中であることを紹介し、会場の皆さんに仲間を誘っての参加を呼び掛けた。佐野研二さん(82回)の発声で万歳三唱し、翌年度の再会を約束して、午後8時40分閉会した。大いに盛り上がった懇親会であった。



2015年度 第49回定期総会開催案内

第49回東京清陵会定期総会を下記とおり開催します。

平成27年10月4日(日)11:00から
アルカディア市ヶ谷4階「飛鳥」

議題①2014年度会務報告

- ②2014年度会計報告・監査報告
- ③2015年度事業計画案
- ④2015年度予算案
- ⑤その他

(資料は23ページ、24ページ参照)

東京清陵会の現況

データベースから東京清陵会の現勢を見ると次のとおりである(2015年6月30現在)。

1. 東京清陵会会員の定義

(1) 首都圏(東京、神奈川、千葉、埼玉、茨城、群馬、栃木)在住の同窓生(ただし、退会申出者を除く)。

(2) 転居して首都圏を離れたが支部会費を納入している同窓生。

2. 会員現勢 総数3,207名(住所不明者1,235名を除く)

(1) 都県別会員数

東京都1,493名、神奈川県654名、千葉県403名、埼玉県396名、茨城県68名、群馬県23名、栃木県24名、その他146名

(2) 年次別会員数(別表1)

3. 会費等納入状況(2014年4月~2015年3月会計期:2014年3月末現在)

(1) 納入者数 会費503名、賛助金223名、合計560名

(2) 年次別会費納入者数(別表1)

(3) 年度別納入額および人数(別表2)

「東京清陵会」 ゴルフ同好会



第24回ゴルフコンペのご案内

会員の交流・親睦を兼ねてゴルフコンペを下記の要項で開催します。同期生などお誘い合わせのうえ、奮ってご参加ください。

●日時:10月29日(木) 9時10分集合 9時40分スタート

●場所:紫カントリークラブ あやめ36 東コース

(常磐自動車道・柏I.Cから、約20分。つくばエクスプレス・流山おおたかの森駅で東武野田線に乗り換え、東武野田線「野田市駅」下車。タクシーで約10分。)

●プレー代:約12,000円(食事付) 会費:5,000円

参加希望の方は、☎03-3518-2385 スタジオパラム=清水(84回生)まで。FAXの場合は、住所・氏名・卒業回・連絡先を明記の上、お申し込みください(FAX:03-3518-2386)。

●幹事=藤森宏一(63回生)、小海健治(84回生)

今年4月23日に行われた第23回ゴルフコンペ。19名が参加、優勝は仁科真蘭さん(64回生)、準優勝宮坂尚利さん(63回生)。



別表1 年次別会員数と2014年度期会費納入状況(2015年6月30日現在)

回生	現員	不明	計	会費	回生	現員	不明	計	会費	回生	現員	不明	計	会費	回生	現員	不明	計	会費
~33	1	23	24	0	57	95	11	106	21	78	67	33	100	10	99	6	12	18	2
34	0	2	2	0	58	82	10	92	30	79	69	13	82	7	100	7	18	25	0
35	4	2	6	0	59	90	9	99	28	80	78	6	84	11	101	2	12	14	0
36	1	5	6	0	60	97	18	115	27	81	75	12	87	12	102		5	5	0
37	3	3	6	0	61	81	13	94	20	82	49	25	74	7	103	2	5	7	1
38	6	3	9	0	62	99	7	106	23	83	71	32	103	10	104	1	1	2	0
39	8	3	11	0	63	91	12	103	37	84	49	26	75	6	105				0
40	5	4	9	1	64	76	15	91	28	85	49	43	92	3	106	3	5	8	0
41	11	5	16	1	65	78	13	91	21	86	44	36	80	6	107	1		1	0
42	16	4	20	1	66	72	22	94	22	87	35	29	64	3	108	1	12	13	0
43	20	2	22	3	67	90	19	109	20	88	30	46	76	7	109	2	9	11	0
44	22	7	29	1	68	71	25	96	16	89	43	50	93	2	110	2	13	15	0
45	19	5	24	0	69	100	19	119	31	90	38	30	68	3	111	2	4	6	0
46	27	10	37	5	70	88	24	112	18	91	25	37	62	0	112	1	1	2	0
47	29	5	34	2	71	74	26	100	7	92	24	45	69	2	113	12	3	15	0
48	43	11	54	5	72	58	15	73	10	93	19	29	48	0	114	4	1	5	0
49	61	8	69	5	73	79	14	93	17	94	22	21	43	1	115	8	1	9	0
50	59	12	71	8	74	68	25	93	9	95	16	27	43	0	116	15		15	0
51	74	17	91	6	75	52	22	74	5	96	19	33	52	1	117	7		7	0
52・55	107	10	117	3	76	59	20	79	8	97	13	23	36	2	118	17	5	22	0
56	94	7	101	16	77	62	18	80	8	98	7	31	38	1	合計	3,207	1,239	4,446	560

- 注 1) 現員:東京清陵会に登録されている会員で、現在住所が把握できている方
 2) 不明:東京清陵会に登録されている会員で、現在住所が不明な方
 3) 会費:前会計期(2014.4~2015.3)会費
 あるいは賛助金納入者の人数(前納者含む)
 会費免除会員(2014年度時点で80歳以上と25歳以下)の人数 945名
 4) 会費納入者数 560名と今期納入者数の差は前納者、その他による

別表2 年度別会費等納入額および納入者数

前々々々々々期納入額総計 (1997.4~2002.3)	7,499,200円	1,371名
前々々々々々期納入額総計 (2002.4~2005.3)	1,667,400円	541名
前々々々々々期納入額総計 (2005.4~2008.3)	6,436,785円	1,167名
前々々々期納入額総計 (2008.4~2011.3)	4,406,000円	812名
前々々期納入額総計 (2011.4~2014.3)	3,503,760円	637名
内訳		
2011年4月~ 小計	1,578,630円	(403名)
2012年4月~ 小計	996,130円	(239名)
2013年4月~ 小計	929,000円	(234名)
前期納入額総計 (2014.4~2015.3)	2,072,000円	575名

注) 前々々々々々期、前々々々々々期、前々々々々々期、および前期納入額には、賛助金も会費として処理されている

別表3 会員数と次期繰越金の推移

年	会員数(名)	不明者数(名)	次期繰越金(円)
1996	4,179	267	15,962,791
1997	4,068	329	15,008,425
1998	3,944	437	16,330,130
1999	3,797	546	15,191,116
2000	3,832	485	13,660,668
2001	3,628	649	11,499,913
2002	3,768	672	10,266,836
2003	3,630	767	8,951,881
2004	3,528	794	7,281,132
2005	3,410	894	6,192,586
2006	3,300	928	8,217,342
2007	4,000	698	8,385,652
2008	3,849	818	8,627,401
2009	3,822	813	9,108,456
2010	3,628	968	9,075,532
2011	3,595	960	8,543,349
2012	3,421	1,089	8,677,237
2013	3,363	1,123	8,165,247
2014	3,207	1,235	7,491,435

- 注 1) 次期繰越金は各年の3月現在
 2) 会員数、不明者数は各年の7月現在(2004年は5月現在)
 2014年(今回)は6月現在

収支計算書(案)自2014年4月1日~至2015年3月31日 (単位:円)

収入の部

科目	予算額	決算額	差異(予算の方が)
1 会費	3,400,000	3,422,000	△ 22,000
(1) 会員年会費(514名)	800,000	1,028,000	△ 228,000
(2) 総会会費(156+34名)	1,600,000	1,350,000	250,000
(3) 賛助金会費(228名)	1,000,000	1,044,000	△ 44,000
2 諸収入	51,200	59,947	△ 8,747
(1) 寄付金	50,000	54,600	△ 4,600
(2) 預金利子	1,200	1,347	△ 147
(3) その他	0	4,000	△ 4,000
当期収入合計(A)	3,451,200	3,481,947	△ 30,747
前期繰越	7,491,435	7,491,435	0
収入合計(B)	10,942,635	10,973,382	△ 30,747

支出の部

科目	予算額	決算額	差異
1 経費			
(1) 総会費用	1,400,000	1,350,656	49,344
(2) 会議費	180,000	184,117	△ 4,117
(3) 諸会費	70,000	70,500	△ 500
(4) 印刷・通信費	700,000	787,685	△ 87,685
(5) 事務雑費	10,000	3,686	6,314
(6) 会報費	700,000	866,361	△ 166,361
(7) 清陵勉強会	60,000	60,000	0
(8) HP運営費	300,000	99,467	200,533
(9) 臨時会報費	0	349,355	△ 349,355
(10) 予備費	10,000	0	10,000
当期支出合計(C)	3,430,000	3,771,827	△ 341,827
当期収支差額(A)-(C)	21,200	△ 289,880	311,080
次期繰越(B)-(C)	7,512,635	7,201,555	311,080

寄付金: 本部 40,000 学校: 10,000 その他: 人名録 @ 2,000 × 2

2015年度収支予算(案)自2015年4月1日~至2016年3月31日(単位:円)

支出の部

科目	金額
総会費用	1,550,000
会議費	200,000
諸会費	70,000
印刷・通信費	780,000
事務雑費	5,000
会報費	845,000
清陵勉強会	60,000
HP運営費	150,000
臨時会報費	400,000
予備費	50,000
小計	4,110,000
次期繰越	7,202,755
合計	11,312,755

収入の部

科目	金額
総会会費	1,760,000
会員年会費	1,200,000
賛助金会費	1,000,000
寄付金	50,000
広告料	100,000
受取利息	1,200
小計	4,111,200
前期繰越	7,201,555
合計	11,312,755

(注) 2015年度予算の収支差額は1,200円の剰余金となります。

東京清陵会2014年度会務報告

2014

- 4・12 第1回事務局会議(事務局)
- 4・22 第145回清陵勉強会(剛堂会館)・講師 二木隆(60)
- 4・30 当番学年(81回生)第1回進行会議/編集会議(事務局)
- 4・29 第5回寒水会(伊藤長七研究会)
- 5・17 南信同窓連総会・懇親会(ホテルメトロポリタンエドモント)
- 5・22 当番学年(81回生)第2回進行会議/編集会議(事務局)
- 5・31 本部同窓会常任幹事・幹事会(清陵会館)
- 6・6 第21回東京清陵会ゴルフコンペ(若洲ゴルフリンクス)
- 6・22 2014年度新卒歓迎・学生交流会(南青山会館)参加者30名
- 6・24 第146回清陵勉強会(剛堂会館)・講師 植松孝彦(74)
- 6・25 当番学年(81回生)第3回進行会議/編集会議(事務局)
- 6・28 清陵本部総会・懇親会(ホテル紅や)
- 7・5 東京同窓連第50回定期総会・懇親会(アルカディア市ヶ谷)
- 7・12 第6回寒水会(伊藤長七研究会)
- 7・22 当番学年(81回生)第4回進行会議/編集会議(事務局)
- 7・26 常任幹事会(南青山会館)出席者25名
- 8・26 第147回清陵勉強会(剛堂会館)・講師 柳沢寿男(93)
- 8・30 学年幹事会(南青山会館)出席者40名
- 8・31 第7回寒水会(伊藤長七研究会)
- 9・2 当番学年(81回生)第5回進行会議/編集会議(事務局)
- 9・10 会報「東京清陵会だより」25号発行 発送部数(3,375部)
- 9・16 当番学年(81回生)第6回進行会議/編集会議(事務局)
- 9・30 当番学年(81回生)第7回進行会議/編集会議(事務局)

- 10・10 当番学年(81回生)第8回進行会議/編集会議(アルカディア市ヶ谷)
- 10・11 第8回寒水会(伊藤長七研究会)
- 10・17 第48回総会・懇親会(アルカディア市ヶ谷)参加者192名
- 10・19~20 南信同窓連親睦旅行会(浜松 館山寺温泉)
- 10・22 第22回東京清陵会ゴルフコンペ(大厚木カントリークラブ)
- 10・28 第148回清陵勉強会(剛堂会館)・講師 小口多美夫(77)
- 11・8 物故会員慰霊法要(地藏寺)及び清陵本部臨時常任幹事会
- 11・22 第2事務局会議(事務局)
- 11・23 第9回寒水会(伊藤長七研究会)
- 12・5 南信同窓連忘年会(東京オペラシティ 東天紅)
- 12・9 第149回清陵勉強会(剛堂会館)・講師 林尚孝(52・55)

2015

- 1・14 当番学年(82回生)第1回進行会議/編集会議(事務局)
- 1・17 女子部会キックオフ(汐留)
- 1・18 第10回寒水会(伊藤長七研究会)
- 2・7 東京同窓連新年懇親会(アルカディア市ヶ谷)
- 2・18 当番学年(82回生)第2回進行会議/編集会議(事務局)
- 2・21 清陵本部常任幹事・幹事会(清陵会館)
- 2・28 第150回清陵勉強会(剛堂会館)・講師 春山明哲(68)、小林盛男(68)
- 3・1 ミドル交流会(アルカディア市ヶ谷)参加者37名
- 3・14 第11回寒水会(伊藤長七研究会)
- 3・16 東京同窓連第16回親睦ゴルフ会(川越CC)
- 3・17 当番学年(82回生)第3回進行会議/編集会議(事務局)
- 3・30 東京清陵会だより「号外」の発行 発行部数(3,265部)

東京清陵会2015年度事業計画

- 1 第49回総会・懇親会の開催(10月4日・アルカディア市ヶ谷)
- 2 会報「東京清陵会だより」26号の発行(8月初~中旬)
- 3 常任幹事会、学年幹事会の開催(6月、7月・アルカディア市ヶ谷)
- 4 当番学年(82回生)編集会議/進行会議(随時・本郷事務局)
- 5 事務局会議(定例、臨時・本郷事務局)
- 6 新卒者・学生交流会の開催(5月10日・アルカディア市ヶ谷)
- 7 若手同窓生との交流会の開催
- 8 清陵勉強会(原則偶数月の第4火曜日・剛堂会館)
- 9 会員増強策の検討、実行
- 10 東京清陵会ホームページの管理
- 11 懇親ゴルフ会の開催
- 12 寒水会(伊藤長七研究会、小石川高校同窓会紫友会との共催)への参加
- 13 本部同窓会、南信同窓連、東京同窓連行事への参加
- 14 その他必要とする事業

編集後記

編集を通して久しぶりに同期の仲間と会うことができました。酒が入り会話ははずめば皆あの頃のまま。清陵時代の3年間が僕らにいかにな大きな影響を与えたかを今更ながら感じました。また取材でお会いした建築家の藤森照信先生の「次も諏訪には生ま

れたいと思う。建築をやるかは分からないけどね」のお話は胸がジーンとしました。先輩も同期も後輩も皆、清陵を、諏訪を、こよなく愛している、そんな思いを感じた一年でした。

(82回生 竹内雅彦)

訃報

謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます(敬称略)。

氏名	年次	逝去年月日
横沢 安雄	(27回)	2006/10/29
花岡 清寿	(37回)	2007/12/10
矢島 善一	(37回)	2012/12/23
大澤 一雄	(38回)	2013/12/11
浅野 勇	(39回)	2014/ 3/29
小松 矩男	(39回)	2012/ 9/18
田中 義明	(39回)	不明
原 彰	(39回)	2009/ 9/20
平沢 茂満	(40回)	2014/ 1/20
岩田 敏雄	(41回)	2008
小松 正弘	(41回)	2014/ 9/16
斉藤 務	(41回)	2014/ 7/14
林 慧	(41回)	2014/11/24
藤森 英	(41回)	不明
伊東 正七郎	(42回)	2014/ 7/ 2
山下 喜淑	(42回)	2013/ 7/23
上條 英一	(43回)	2013/ 7/ 2
佐野 正美	(44回)	2015/ 3/14
中川 新治	(44回)	2015/ 3/18
三沢 幹男	(44回)	2002/ 3/
宮坂 貞	(44回)	2013/12/13
有賀 徹	(45回)	2014/ 4/ 3
小口 登	(45回)	2014/ 4/ 8
小池 侃	(45回)	2014/ 2/ 6
林 三雄	(45回)	2014/ 1/13
矢澤 徳衛	(45回)	2013/10/ 3
笠松 幸雄	(46回)	2014/ 6/19
谷田部 千秋	(46回)	2013/ 3/21
青柳 繁治	(47回)	2011/ 7/
有賀 邦久	(47回)	2014/10/15
小池 雄四郎	(47回)	2013/ 6/14
高木 政晃	(47回)	2014/ 9/14
竹村 健一	(47回)	2014/ 4/19
根橋 利夫	(47回)	2014/ 8/ 6
山根 充彦	(47回)	2014/ 6/
石原 一嘉	(48回)	2013/10/19
大澤 幸雄	(48回)	2014/ 4/ 1
宮澤 欣一	(48回)	2014/ 2/23
林 敬三	(48回)	2014/12/29
矢嶋 國夫	(48回)	2015/ 3/ 4
名沢 光男	(49回)	2011/ 5/31
平出 隆男	(49回)	2015/ 2/ 1
平林 章作	(49回)	2014/12/
赤羽 省吾	(50回)	2014/ 9/10
中島 英幸	(50回)	2011/ 6/ 9
宮坂 友昭	(50回)	2014/ 5/ 8
金子 真之	(51回)	1999/ 7/18
金子 光徳	(51回)	2014/ 5/20
鎌倉 満雄	(51回)	2014/ 3/ 7
塩澤 秀登	(51回)	2015/ 3/ 6
田中 勝彦	(51回)	2014/ 2/27
中山 博文	(51回)	2012/11/23
東小川 学	(51回)	2013/ 7/23
村田 實	(52回)	2013/11/26
山田 俊二	(52回)	2014/ 7/23
小松 武義	(55回)	2014/10/15
西澤 賢一	(55回)	2015/ 1/10
舟岡 克之	(55回)	2014/ 6/14
飯田 有年	(56回)	2015/ 3/22
岩波 廣明	(56回)	2013/ 7/17
内川 紀元	(56回)	2013/11/
三沢 理一	(56回)	2013/11/21
飯島 孝雄	(57回)	2014/ 7/ 7
伊東 健吉	(57回)	2014/ 8/27
常川 唯彦	(57回)	2013/10/16
小島 仁	(57回)	2014/ 7/23
小林 久夫	(57回)	2013/10/18
名取 康	(57回)	2014/ 9/ 8
伊藤 弘	(58回)	2014/10/22
小口 隆三	(58回)	2014/ 6/ 1
木之下 晃	(58回)	2015/ 1/12
吉川 共治	(59回)	2013/10/ 5
武田 善伸	(59回)	2014/ 8/
丸山 茂夫	(59回)	2015/ 1/ 7
丸山 義雄	(61回)	2005/11/21
石城 祐吉	(62回)	2015/ 2/23
片瀬 泰之	(63回)	2013/12/7
宮坂 光彌	(63回)	2014/11/10
牛山 善敬	(64回)	2013/ 4/ 1
小川 洋次	(64回)	2014/ 2/22
武居 哲彦	(67回)	2010/12/25
望月 信夫	(67回)	2013/12/11
浜 滋明	(68回)	2012/10/29
松尾 秀孝	(71回)	2015/ 2/ 9
太田 由喜夫	(74回)	2014/ 8/ 4
武井 義幸	(77回)	2013/10/30
土橋 正明	(80回)	2014/ 8/16

●事務局に連絡が入った方